

平成 25 年度 事業報告書

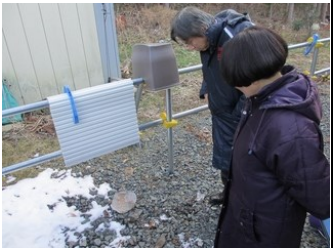
特定非営利活動法人日本リザルツ



事業活動（平成 25 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

日付	活動内容
1 月	
7 日	国際連帯税推進の為に国会議員訪問 国際連帯税フォーラムの代表理事でもある白須代表はオルタモンド田中徹二事務局長とともに衆議院会館、参議院会館を精力的に回った。公明党の「外交・安全保障部会」、「外交・安全保障部会」の荒木清寛・佐藤茂樹・竹内 譲・竹谷とし子・遠山清彦・浜田昌良・山本香苗各議員の事務所、また「国際連帯税議連」の加藤修一・谷合正明議員の事務所を訪れ、「国際連帯税に関する実施並びに検討についての要望書」を手交した。 公明党へ GAVI アライアンスへの支援要請 GAVI アライアンスの北島千佳上級資金調達官と一緒に、公明党の古屋範子衆議院議員と面会。GAVI アライアンスの日本におけるプレゼンスを高め、日本政府からの拠出を増やすためにも、ワクチンに関する議員連盟の活動を再開していただくよう要望した。また、来年度の予算編成において GAVI アライアンスへ 20 億円の拠出をしていただくことも重ねて要望。この後、武見敬三参議院議員、浜田昌良参議院議員事務所、松山政司参議院議員事務所などにも新年のご挨拶とともに、GAVI への支援を要請。 
8 日	北島さんとともに GAVI アライアンスの支援要請 GAVI の北島千佳上級資金調達官と一緒に、小泉進次郎衆議院議員事務所を訪問し、秘書の鍋倉正樹氏を通じて GAVI アライアンスへの支援を要請した。その後、厚生労働委員長の松本純衆議院議員、小此木八郎衆議院議員事務所や山口俊一衆議院議員事務所、野田聖子衆議院議員事務所などにも新年のご挨拶と GAVI への支援のお願いを実施した。
9 日	USAID が取り組む国際保健のパートナーシップ 白須代表、新里が日本医療政策機構主催の朝食会に出席し、USAID（米国国際開発庁）のジェイ・シン開発協力担当参事官による講演を聞いた。国際保健分野のあらたなパートナーシップ～USAID の革新的なアプローチに学ぶ～というテーマの通り、USAID の国際保健分野における取り組みについて聞くことができた。USAID の「GDA（Global Development Alliance）スキーム」を通じた支援として、日本初の事例である味の素との連携の事例も紹介された。

10 日	GAVI 支援へ全 722 名の国会議員へ配布 衆議院・参議院の全 722 名の国会議員へ、GAVI アライアンスへの理解・支援を求めてリーフレットと要望書の配布を実施した。日本政府に対して、2013 年に GAVI アライアンスへの 20 億円の拠出を求めるキャンペーンの一環。GAVI アライアンスのドナーの中で、残念ながら現在日本政府は上位 10 以内にも入っていない。 姫井由美子先生とアフガニスタン大使館を訪問 姫井由美子前参議院議員と GAVI の北島千佳 上級資金調達官と一緒に、駐日アフガニスタン大使館を訪問。以前お会いしたセイエド・モハンマド・アミーン・ファテミ大使は海外出張中のため、残念ながら会えなかったが、S・アリ・アシュガール・アミリ三等書記官へ GAVI 支援について説明。  官民連携ハイチでの TB-LAMP 測定結果の評価と結核診断能力向上 外務省にて官民連携提案案件説明会が行われた。参加グループは外務省、内閣官房、JICA、栄研化学株式会社、日本リザルツの 5 団体。 「官民連携によるハイチでの TB-LAMP 測定結果の評価と結核診断能力向上」と題して、ハイチで蔓延している結核問題への対策の向上について、栄研化学から提案説明があり、活発な質疑応答が行われ、今後の国際協力の新たな形を創るモデルケースとして多くの関心が集まった。 
11 日	つなみ募金 去る 1 月 11 日で東日本大震災から 1 年 10 か月が経った。今月も恒例のつなみ募金活動を同日のお昼時に水道橋駅前で行った。今回もエマウスメディカルジャパンと親子ネットの皆様が積極的に参加していただいた。 

12 日	アフリカ布で、何を作ろう？ アフリカで生活経験のあるスタッフは、アフリカの紹介を行った。写真等を通して、住民の生活を紹介。そして、手芸が大好きな仮設住宅の方達とアフリカ布を使った小物作りを提案した。  幸道先生と畠山さんの健康相談会 月 1 回開催している「健康相談会」の日に東京臍帯血バンクの幸道秀樹先生と、遠野市の畠山美代子保健師のコンビは、「親しみやすい」「ちょっとした不安も、話しやすい」と、大変好評。午前中は、先月と同じ箱崎町 B 仮設の談話室で相談会を実施し、午後からは巡回を行った。  川田龍平先生の「誕生日を祝う会」にご招待 川田龍平参議院議員が 37 歳の誕生日を迎えた。川田議員の事務所より日本リザルツ白須代表とスタッフに「川田龍平の誕生日を祝う会」の御招待状を頂戴し、参加した。 川田龍平議員は厚生労働委員会で活躍され、感染症対策において日本リザルツとも協働して世界基金への拠出金を増やすよう国会で熱心に取り組んでいただいている。また川田議員が若い頃から代表の白須と懇意にさせて戴いている経緯もあり、今回お招き戴いたもの。 
17 日	ハイチでの国際協力を成功させるための打ち合わせ ハイチでの国際協力を成功させるため、LAMP 法の結核診断プロジェクトのメンバーは、東京都清瀬市にある結核研究所、抗酸菌レファレンス部長の御手洗聡教授と会合を開き、途上国での活動にあたってのアドバイスと活発な質疑応答が行った。 

21 日	国際栄養に関する勉強会 JICA でも活動し、ヘルスマネジメントコンサルタントとしてご活躍されている和田耕太郎さんをお招きして研修を行った。国際栄養についての概要と課題、今後の展望と非常に興味深いレクチャーをいただいた。我々リザルツとして、今後の活動に役に立つヒントもあり、有意義な時間だった。 国際連帯税を早期に導入しよう！ 国際連帯税フォーラム理事会 夕刻より国際連帯税フォーラム理事会が行われ、5 月 30 日に予定している国際連帯税イベントの企画などについて検討した。報告事項として日本リザルツからは鰐部より昨年末の OECD に参加した際の活動状況について説明を行った。
24 日	リボンフラワー「はまゆり」 鶴住居地区にお住まいの、石垣邦子さん。リボンフラワー歴 40 年以上という達人。昨年 12 月のある日、「自分の持つ技術をたくさんの人に広めたい」「復興の花として、釜石市の花である“はまゆり”を、釜石中に咲かせたい」とい夢を語ってくれたことより鶴住居地区応援センターの協力を得て、遂に第 1 回講習会が鶴住居町田郷仮設住宅の談話室で開催。 米国大使館訪問 米国大使館を訪問し、GAVI アライアンスの活動やその重要性を説明。面談したのは、ジェームス・マコーミック経済部二等書記官、同科学技術・環境・医療課の佐野美佳子アナリスト。熱心にお話を聞き、GAVI への支援の重要性を理解してくれた。 GII/IDI 懇談会で GAVI アライアンスについて報告 GII/IDI に関する外務省/NGO 懇談会があり参加。GII/IDI 会合とは、1994 年に「人口・エイズに関する地球規模問題イニシアティブ（Global Issues Initiative: GII）をより効果的に実施することを目的に外務省と NGO の政策対話の場として開始されたもので今回は第 107 回目。日本リザルツの新里が会議のト



	ップバッターとして昨年 12 月 5 日～7 日にタンザニアで開催された「GAVI アライアンス パートナーズ・フォーラム 2012」の状況を報告した。
25 日	GAVI 応援団拡大中 GAVI アライアンスのパートナーでもあるサノフィ株式会社渉外本部 PA プロジェクト室の スチュアート・フェルドマン室長が来所。サノフィ株式会社のワクチン事業部門サノフィ・パスツールは、GAVI の先進国ワクチン製造者のグループに入っており、途上国向け 5 価ワクチンを低価格で提供するなど、GAVI の事業に大きく貢献している。今後の GAVI 応援団として協力体制など協議した。 
29 日	ハイチ官民連携事業に向けた出張 栄研化学株式会社 森安義工学博士、角泰人 アドバイザー、前参議院議員 姫井由美子理事、白須紀子代表、吉田は、ハイチに到着。日本政府と栄研化学株式会社が進めている「官民連携」事業で日本の技術「LAMP 法」の世界普及計画は、ハイチから開始する予定。まずはハイチ大統領夫人事務所を訪問。今回の事業で、協力いただくグレース小児病院のエグゼクティブ・ディレクターで、元保健人口大臣のジョゼット・ビジュ医師とも面談。 
31 日	ハイチ出張その 2 ハイチ国保健人口省を訪問。UCP（結核・HIV・マラリアを取り仕切っている省内の機関）のトップであるブルン・デロネイ先生と面談し、今事業へのご理解をいただく。レオガン市では 30 年以上に渡り、ハイチの結核対策に取り組まれてきたシスター須藤昭子シスターとも再会した。  第 3 回国際開発セミナーに日本リザルツスタッフも参加 今回のテーマは、ユネスコ・アジア文化センターの小荒井理恵さんの「カンボジアにおける SMILE Asia プロジェクト」。識字と母子保健を統合した支援アプローチは、相乗効果が高く有効であるとのこと。多くの参加者と小荒井さんとの活発な質疑応答の後、早稲田大学の勝間靖教授によるミニ講義もあり、とても有意義なセミナーだった。

2 月	
1 日	ハイチ出張その 3 今回のハイチ出張についての報告の為、日本大使館を訪問。倉富健治大使とも面談。在ハイチ日本大使館及び JICA ハイチフィールドオフィスの皆様のご尽力により、今回の出張を大変スムーズに進めることができた。 
4 日	中学校生徒に国際協力とアドボカシー活動の体験学習を実施！ 東京女学館中学校の生徒 6 人に対して、学習カリキュラムの一環である社会貢献学習（地球規模課題に取り組む国連機関・政府機関・NGO・NPO を訪問し、自分たちの問題意識・課題をインタビューし協力活動を行う内容）を受け入れた。当日は、元気いっぱいの生徒のみなさんに日本リザルツの活動の概要やマイクロクレジット、東北支援活動、ハイチの結核対策プロジェクトについて説明した。また街頭での募金活動も積極的に取り組んでいただいた。最後に生徒たちからスタッフへのインタビューも行うなど、大変熱心に取り組んでくれた。 
6 日	衆議院第二議員会館にて「地球規模課題に日本のリーダーシップを！」 アフリカと日本の未来を考える」と題した国会議員勉強会に参加。この会はアフリカ市民協議会代表団を迎えて国会議員、外務省、NGO が集って自主勉強会を行ったもの。まず司会進行役の阪口直人衆議院議員から開会のご挨拶で。次に呼び掛け人を代表して武見敬三参議院議員からお話をいただいた。外務省の麻妻信一アフリカ部アフリカ第二課長から TICAD V の概要についてご説明いただき、その後アフリカから遥々来た三人の代表が夫々自己紹介と TICAD V にかける思いを語った。国会議員も多数参加して伊藤忠彦衆議院議員、小熊慎司衆議院議員、川田龍平参議院議員、中川正春衆議院議員、御法川信英衆議院議員など大勢の方々が関心を持たれている様子だった。 
7 日	アフリカ NGO 代表団が TICAD V コンタクトグループで意見交換 TICAD V コンタクトグループにアフリカ市民協議会の代表団を迎えて意見交換会を行った。会場にはコンタクトグループに所属する 

	NGO が多数、参加。報告後の議論も活発に行われた。特に食糧安全保障や農業問題についてはアフリカ側から強い問題意識を持った発言があった。討論の末、TICAD V の NGO 共同提言書に入れることとなった。
8 日	国際連帯税創設を求める議員連盟の第一回役員会に参加 国際連帯税創設を求める議員連盟の 2013 年第 1 回役員会が参議院議員会館で開催された。今回より新体制として会長に川口順子参議院議員、事務局長に石橋通宏参議院議員が就任されており、二人を中心にこれから進めていくことになった。会場代理の加藤修一参議院議員、常任幹事の阪口直人衆議院議員、事務局次長の小熊慎司衆議院議員も出席し、2013 年活動方針の確認、TICAD V サイドイベントにおける議員連盟共催についての承認等が話し合われた。 アフリカ市民委員会のギュスターヴ・アサーさんと意見交換 今年 6 月の TICAD V に向けて、ベナンから来日しているアフリカ市民委員会 (C-CfA) 委員長のギュスターヴ・アサー氏と日本リザルツスタッフが、都内で会談した。JICA から拠出されている国際協力活動資金の範囲を、我々 NGO が行う国際協力アドボカシー活動にも広げ、実施させていくための展望について、お互いに意見交換を行ったもの。 
9 日	アフリカ市民協議会代表团とのラウンドテーブル&シンポジウム 鰐部が午前 TICAD V に向けて共催者とのラウンドテーブル、午後には横浜で開催されたシンポジウム「市民が望むアフリカと TICAD の明日」に参加した。共催者とのラウンドテーブルは世界銀行東京事務所で約 2 時間、外務省を始め、UNDP、国連、世界銀行、アフリカ各国大使などが出席し、NGO 側からはアフリカ市民協議会代表团 3 名とともに日本の NGO、ユース代表も参加し。午後のシンポジウムは、JICA 横浜の会議室で夕方 17 時から催された。会場はすぐに満室となり、外務省から伊藤誠 TICAD V 特命全権大使、横浜市から山崎隆弘文化観光局コンベンション振興部長が参加した。  安倍首相 被災地訪問 安倍晋三首相が、岩手県と宮城県を訪れた。岩手県の陸前高田市と大船渡市、宮城県の気 

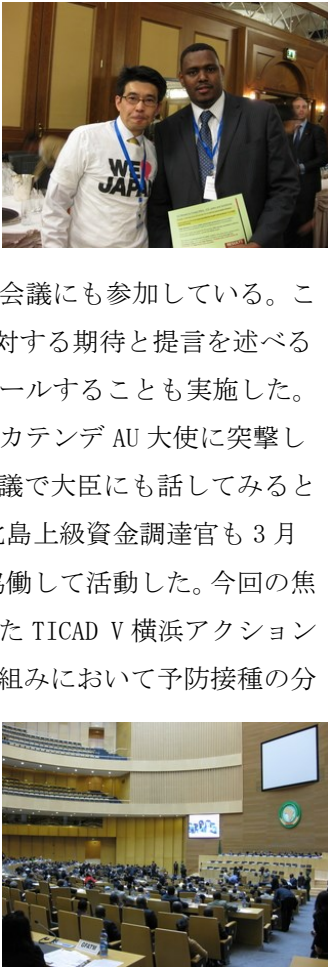
	仙沼市を視察した。安倍首相は、「復興の加速化」を何度も口にした。白須代表も併せて被さい地を訪れ首相の公約を見守った。
13 日	最近の新しい動き - UNRWA キャンペーンと親子の絆を守る活動 日本リザルツは、国連パレスチナ難民救済事業機関 (UNRWA) の日本キャンペーン事務局、また親子の絆を守るりこちゃんキャンペーンの事務局として、すべての国会議員に働きかけてきた。UNRWA では、直接裨益するパレスチナ難民へ資金拠出や最低限の食糧供給、保健事業の充実などを政府に実施してもらうよう要請している。 また親子の絆を守る活動では、離婚によって受ける子どもの影響が、大きな問題となっている。その為、日本において「親子新法」を制定し、子どもの「連れ去り」禁止や親子の面会交流の制度保証など現在の法制度の不備を是正し、また親子の面会交流のサポートをする組織や人材を充実させるよう、取り組んでいる。
15 日	好奇心いっぱいのナデシコ釜石アフリカ講座 東北復興支援活動をしている釜石事務所は甲子第3仮設住宅談話室にて「アフリカ講座」を開催し、釜石のナデシコ8名が参加した。アフリカ西部のセネガルに2年間、青年海外協力隊として活動していた釜石事務所長の吉田が、釜石市の仮設住宅談話室にて、異文化の様子やセネガルの布を使った小物づくりを行った。 
19 日	エマウス・メディカルによる被さい地訪問 エマウス・メディカル・ジャパン株式会社の新原豊博士と末広美奈子さんが岩手県と宮城県を訪れた。エマウス・メディカルは、今、鎌形赤血球の治療薬として注目されている「アミノピュア L-グルタミン」の輸入・販売を行っており、カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) の医学部教授でもある新原豊博士は、開発者として活躍されている。釜石市、大船渡市、陸前高田市、気仙沼市を巡り、それぞれの場所で大変親身に住民の方々のお話を聞き、アドバイスをしてくれた。 
25 日	リボンフラワー「はまゆり」 東北復興支援活動 釜石市鶴住居在住の石垣邦子さんによるリボンフラワー「はまゆり講座」を日向仮設住宅D談話室で開催した。復興の花「はまゆり」 

	をみんなで咲かせて、「元気な町をつくる」を合言葉に続けている活動。今回は畠山応援センター長、飛び入り参加で鳩山東大社会開発 PT の方々に参加いただいた。
26 日	TICAD V アフリカ交流 in 釜石をアピール！ 釜石市平田パーク商店街会議室において行われた平田公園仮設団地まちづくり協議会で、日本リザルツ釜石事務所の吉田が 3.24 TICAD V の釜石でのイベント「アフリカ文化交流会」について、参加者の皆さんにアピールした。 協議会には、復興推進本部生活支援室長の久保孝信市地域づくり推進課長など行政関係者、地元平田パーク商店街の阿部忠志会長、警察署担当者、仮設住宅自治会長、各種被さい者支援活動を行う NPO 団体など総勢 19 名が参加した。 
27 日	UNICEF ポリオ写真展 UNICEF の「ポリオのない世界を目指して」レセプション及び写真展に参加した。いつも日本リザルツを応援してくださるセイエド・ムハンマド・アミー・ファティミアフガニスタン大使とも再会。ポリオは予防接種によって防ぐことができる病気。現在日本ではポリオワクチンが定期接種化されており、1980 年を最後に患者は発生しない。一方、世界にはポリオが根絶されていない国は 3 か国（アフガニスタン、パキスタン、ナイジェリア）残っている。世界からポリオを根絶し、その状態を維持するためには予防接種が欠かせない。 
28 日	石鹼作り 釜石市桜木町仮設住宅にて、石鹼作りを行った。今日の講師は、唐丹町漁協組合婦人部の上村年恵さんと、市長の奥様である野田幸子さん。 漁協婦人部では、漁港で合成洗剤を使うとワカメの発育に影響があったことから、より安全な石鹼を作って使用するよう取り組んできた。震さい後、活動が一旦停止している状態だったが、また再開したいとのこと。 

	GAVI アライアンス来日 今回、ジュネーブより GAVI のヘレン・エバンス事務局次長と北島千佳上級資金調達官が来日され、財務省や、GAVI 支援において重要な役割を担う議員を訪問。財務省主計局では岡本薫明次長と面会。ヘレン事務局次長より GAVI の活動意義を説明し、その使命達成のためにも日本政府からのさらなる支援の必要性を訴えた。その後衆議院厚生労働委員長の松本純衆議院議員と面会。世界基金支援日本委員会議員タスクフォース・メンバーでもある松本議員は、国際保健への理解も深く、母子保健対策の必要性やワクチンの有効性についても言及された。続いては、財務金融委員会理事・公明党国際委員長の上田勇衆議院議員との面会。最後に、武見敬三参議院議員のところへ。ポリオ議連幹事長を務める武見議員は、GAVI の重要性や日本政府からの拠出が不足していると会合でご発言いただいたので、面会の際にヘレン事務局次長が感謝の意を伝えた。 
3 月	
5 日	ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会 参議院議員会館にてストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会が開かれた。本総会で武見敬三参議院議員が新しく会長に、前会長の梅村聡参議院議員が顧問に就任された。事務局長は引き続き浜田昌良参議院議員が続投となった。日本リザルツからも問題提起した。昨年 12 月にケニア国を訪問し、現地での結核対策の必要性を再認識し、現在 JICA が実施している「結核対策アドバイザー」プロジェクトが間もなく終了するので上記のプロジェクトに代わる新たな結核対策プロジェクトを計画しないと、ケニアにおける結核事情は悪化してしまう恐れがあるというもの。そこで、JICA が次期申請中の結核対策プロジェクトを承認し、現地で必要とされている対策が行われるよう、結核議連としての支援を要請した。逢沢一郎衆議院議員をはじめ、多くの方が結核対策の必要性に対する理解を示された。 
6 日	UNRWA の清田明宏保健局長が来日 急遽、国際連合パレスチナ難民救済事業機関の清田明宏保健局長が来日し、日本リザルツオフィスに立ち寄っていただいた。清田先生は UNRWA の保健局長として就任された際にも、同機関が管轄する全ての保健所を訪問し、現場の問題を拾い上げるよう注力され、その長い行脚と思考の中でパ

	レスチナの保健所が疾病毎に細分化されている体制なので患者の利便性が悪いこと、また生活習慣病が多く家族の結び付きが強い中東では家族単位で健康問題に対処するように仕向けられればより効果的、効率的に改善が期待出来ることに気付き、家庭医制度の導入に取り組み始め、現在までに着実な成果を上げられてきた。事務所での懇談後、清田先生は白須代表とともに参議院議員会館へ行かれ、武見敬三参議院議員や浜田昌良参議院議員にご挨拶に回られた。
9 日	浅野茂隆理事長の早稲田大学での退任記念講演会 我々が日本リザルツ理事長、浅野茂隆先生が早稲田大学で最後の講義を行った。会場の大隈記念講堂小講堂には多くの人が集まった。まずは先生の記念講演でとても感慨深い内容だった。その後、花束贈呈。日本リザルツからはスタッフの新里が壇上に上がりお花を贈呈した。また先日、日本リザルツ理事に就任していただいた姫井由美子前参議院議員も駆け付けてくれて一緒に。その後、ゲストは本庶 佑（文化功労者、学士院会員、静岡県公立大学法人理事長）、山崎 達美（中外製薬株式会社取締役副社長）、家次 亘（シスメックス株式会社代表取締役社長）の各氏をお招きしてパネルディスカッションが行われた。早稲田大学を定年退職されるが、浅野理事長は今後、国際貢献活動に一層励んでいきたいと述べられた。 
11 日	パレスチナで凧揚げ、そして、釜石へ パレスチナのガザ地区。1000 人もの子供たちが集まり、パレスチナの大空に凧を揚げた。東日本大震災で犠牲になった方々への追悼の念、そして、復興への願いを込めて行なわれた凧揚げは、国際連合パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）が企画し、昨年に続き、2 回目の開催となった。UNRWA ガザ事務所で働く日本人職員の大澤小枝さんを始めとした皆さんのご尽力により実現した。  TICAD V 閣僚級準備会議前に都内でアフリカ各国大使館を訪問 今回の閣僚会議の開催国であるエチオピア大使館マルコス・リケ特命全権大使にお会いし GAVI アライアンスの重要性を説明。開催国でもあり大変お忙しい中、リケ大使は熱心に聞いてくださり、「約束は出来ませんが開催国として大統領が演説し、外務大臣のスピーチも有りますので善処してみ

	ます。」との表明をいただいた。 世界基金マーク・ダイブル事務局長来日 来日中のマーク・ダイブル世界基金事務局長と白須代表が面会。 会合には、同基金のクリストフ・ベン渉外局長、國井修戦略投資効果局長、また公益財団法人日本国際交流センターの渋澤健理事長、伊藤聡子執行理事が同席。世界基金の結核対策に関しては、世界の約 80%の結核対策資金が世界基金を通じて提供されており、その役割は非常に大きい。日本は 2008 年に「ストップ結核ジャパンアクションプラン」を打ち出し、世界の結核死亡者数の 1 割の救済を目指して結核対策に取り組むことを世界に約束しており、この約束を果たすためにも、日本政府は世界基金の主要ドナー国の一つとして、世界の結核対策に貢献してきた。今後とも世界基金が結核対策を十分に行ってもらえるようお願いするとともに、白須代表は 3.11 震災復興の話をし、被災地の人々が、苦しい状況の中でも世界のさらに困窮する人々への深い思いやりを持ち、さらに困っている人を助けたいという気持ちを続けていることなどを話した。これにはダイブル事務局長も大変感動され、自身のアフリカ村落での経験を話してくださった。今回の面会では意見交換を行い、有意義な時間となった。   つなみ募金 東日本大震災からまる二年が経った。ボランティアの方々とともに、水道橋駅付近でつなみ募金を行った。いつもお手伝いしてくださる親子ネットの皆さんとエマウス・メディカルの方々や TMP の田島さんが駆けつけてくれた。
12 日	釜石の皆さんの手作りプレゼントを届けにセネガル大使館へ セネガル大使館を訪問し、釜石の方達の手作り、コースター、カゴなどの小物のプレゼントを渡した。震災から二年が経ち、生活の再建の見通しの立たない中、仮設住宅で暮らす釜石の皆さんは 各地のボランティアさんからの贈り物の布地、毛糸等を素材にコースターやマフラーを手作りされているとのこと。大使館では、ハジ・アブドゥ・ンジャイ 二等書記官-領事に対応して頂き、リザルツの活動についての説明も行った。

	TICAD V 閣僚級準備会議前に都内でアフリカ各国大使館を訪問 引き続き GAVI の重要性を各大使館に説いて回った。セネガル大使館では、ジャン・ジュフ一等書記官に対応していただき、ウガンダ大使館のカムドリ・ナサナイリー等書記官と面会した際には非常に関心の高い様子で同国における最重要課題の一つだと発言を得た。ベナン大使館ではゾマホン・ルフィン特命全権大使と面会。ゾマホン大使は残念ながら TICAD V 閣僚級会合には行けませんが、本国への連絡を約束してくれた。 
16 日	TICAD V 閣僚級準備会議でのアドボカシー活動報告 3 月 16 日-17 日にエチオピア・アディスアベバで TICAD V 閣僚級準備会議が開催された。スタッフ鰐部は前日の 3 月 15 日の高級実務者会合より参加し、本会議を通してアフリカの子供達のための予防接種強化に向けたアドボカシー活動を展開した。また今回、先月に来日したアフリカ市民協議会の主要メンバーが本会議にも参加している。このような状況下、CSO の立場として TICAD V に対する期待と提言を述べる上でアフリカメンバーとともに重点課題をアピールすることも実施した。特にウガンダ代表団で書類を読んでいたマル・カテンデ AU 大使に突撃して説明した際にとっても良い反応で、夜の戦略会議で大臣にも話してみると確約してくれた。今回、GAVI アライアンスの北島上級資金調達官も 3 月 14 日からアディスアベバに来て活動しており協働して活動した。今回の焦点は 2 月の TICAD V 共催者会合後に打ち出された TICAD V 横浜アクションプランのドラフトの内容。特に保健分野への取組みにおいて予防接種の分野については事前のドラフトでは全く言及が無い為、これまで東京での大使館訪問によりアドボカシー活動を展開してきた。そして今回は閣僚級準備会議直前にアフリカ各国の閣僚及び高級官僚に対して、同プランの内容検討の際に予防接種の重要性そして保健分野への取組みにおける日本政府の支援強化を呼び掛けてもらうよう要請を行 

	ったもの。結果としては最終日の朝、配布された横浜アクションプランのドラフトを見るとワクチンと予防接種の向上についての記述が増え、更に良い内容になった。今回のアディスアバでのアドボカシー活動は、TICADV横浜アクションプランへの記載で前進があり、一定の成果を収められた。引き続き日本外交の大きな舞台である TICADV はアドボカシー活動にもまたとない機会なので引き続き国際保健、予防接種等の啓蒙活動に邁進して参りたい。
21 日	TICADV 学生プロジェクト「釜石研修」初日 昨日、釜石に到着した日本全国とアフリカ各国の学生たち総勢 34 名。初日の今日は、教育に関するインプットとディスカッションを中心に行われた。午前中、釜石市教育委員会にて、岩手大学釜石サテライトについて学んだ。国立大学法人岩手大学及川豊史特命課長（三陸復興推進担当）より、東日本大震災発生を受けて三陸の復興のため、釜石サテライトが果たす役割をお話いただいた後、「岩手大学釜石サテライト」を視察した。午後から、釜石市中心部と鶴住居地区を中心に市内視察を行った。多くの家屋が流されてしまった鶴住居中心部に降り立ち、言葉を失う学生も多くいた。 
22 日	TICADV 学生プロジェクト「釜石研修」2 日目・市長表敬 TICADV 学生プロジェクト「釜石研修」2 日目は野田武則釜石市長への表敬を行った。野田市長より、これまでの釜石の取り組みや復興に向けての計画をお話いただいた。学生からも多くの質問があった。また防災教育の大切さ、今回の震災の経験をどう活かしていくのか、いかに風化させないように取り組んでいくか。数多くの討論があった。市長表敬を終えた一行は、本日の研修をスタート。「保健・医療」に関するインプットを中心に行った。市健康推進課より、釜石市の取り組みについて学んだ。また仮設住宅自治会長をお招きし、座談会を行った。自治会の役割、住民同士の見守りなどを通じて、長引く仮設住宅での生活をよりよいものにするため、熱く語っていただいた。  
23 日	TICADV 学生プロジェクト「釜石研修」3 日目 釜石市の小佐野コミュニティ会館。まず、アフリカ各国の学生たちから、

	それぞれの国を紹介。いつもリザルツと仮設住宅を中心とした巡回健康相談会を行ってくださっている幸道秀樹先生より、講義をしていただいた。 午後より、「アフリカ ワークショップ」が行われた。 TICADV 学生プロジェクトは、これまで釜石で見てきたことや学んだことを踏まえて、岩手大学生や釜石市に住む若者たちと話し合った。 健康相談会開催@陸前高田市滝の里仮設団地 本日、東京から定期的に被さい支援活動として参加している医師の幸道秀樹先生が、陸前高田市の滝の里仮設団地を訪問し、健康相談会を行った。 幸道先生は血圧測定を行い、健康相談では一人ひとりにやさしく声を掛けて、様子を聞いていた。相談者も本当に安心している様子だった。	 
24 日	TICADV 学生プロジェクト「釜石研修」最終日 平田第6 仮設団地にて、「釜石・アフリカ 交流フェスタ」を開催した。 まずは凧作りを有志で開始！自治会が用意してくださった手作りの大凧に、学生たちを始めとした参加者が寄せ書きした。 また会場にはリザルツのブースを設置した。炊き出しは、学生たちよりアフリカ風シチュー「マフェ」と、カリタス釜石より、焼きそば、たこ焼き、フランクフルト、綿あめが振舞われ、大盛況だった。 司会進行役は、の大久保孝信釜石市地域づくり推進課長。リザルツの吉田もご挨拶させていただいた。大迫力の平田青虎会による平田虎舞、唐仁の桜舞太鼓、学生たちによるアフリカ文化披露でアフリカのダンスや歌が披露された。釜石市の花「はまゆり」作り講座をリザルツと一緒に行ってくださっているリボンフラワーの石垣邦子先生より、アフリカの学生たちに「はまゆり」を最後にプレゼント。	 
26 日	リボンフラワーの「はまゆり」@箱崎 すっかりおなじみとなった、リボンフラワーの「はまゆり」講座。今日は、	

	箱崎町 B 仮設団地の談話室にて行った。今年度、鶴住居地区生活応援センターと共に、公民館事業として行ってきたこの講座。来年度もどんどんエリアを拡大しながら続けていく。	
29 日	「お互いに乗り越えよう」 野田武則 釜石市長との面談 釜石市役所本庁舎市長室にて、日本リザルツ釜石事務所メンバーは野田武則釜石市長と面談し、3月20日から24日まで行われた TICAD V 学生研修と釜石・アフリカ交流フェスタに対し、全面的なご協力を頂いたことに、御礼の挨拶を行った。野田市長からは、「今回の TICAD V 学生研修を釜石で実施して頂いたスタッフや日本リザルツの皆さんに心より感謝したい」との言葉を頂き、和やかなムードの中、対談を終了した。	
31 日	LAMP 官民連携事業 ハイチにて本格スタート 栄研化学株式会社の森安義工学博士、元東京大学医科学研究所の臨床検査技師長の源不二彦さん、日本リザルツアドバイザーの角泰人医師、スタッフの吉田の4人は、ハイチに到着した。外務省と栄研化学による官民連携事業のため、今年の8月までハイチにて LAMP 法を使った結核検査を行う。昨年 LAMP 法を実施したグレース小児病院にて、検査技師の LAMP 法の技術チェックを行った。ハイチは、保健大臣や今回お世話になるグレース小児病院の理事長も女性であり、保健分野における女性の社会進出が日本よりも進んでいるようだ。	
4 月		
4 日	釜石に春を！(4月4日) リボンフラワー講座 「はまゆり」をつくろう 釜石ブログでもおなじみのリボンフラワー講座。今回は平田第6仮設談話室にて行った。講師は石垣邦子さん。春らしいお召し物で来ていただいた。釜石に春がやってきたように温かい空気を感じた。復興に向けて、引き続き活動を続けていきたい。 姫井由美子先生が来所 姫井由美子理事がお母様とご一緒にリザルツの事務所を訪ねて下さった。東北の被災地の方々へお届けするようにと沢山のチョコレ	 

	ートをお預かりした。先生のお心遣いは被さい地の方々も喜ばれるはず。先生ありがとうございました。
5 日	栄養に関する 3 団体要請書 リザルツは現在、結核、ワクチンに加えて新たなアドボカシー分野として途上国の栄養改善に取り組み始めている。その後、TICAD V における成果文書で栄養問題への言及をもっと充実すべきと考え、特に 2010 年に日本がカナダ、USAID、世界銀行とともに協働して設立した行動的枠組みである SUN (Scale Up Nutrition) をもっと盛り上げるべきと主張。栄養問題で共鳴し、賛同し合った NGO3 団体（日本リザルツ、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、ワールド・ビジョン・ジャパン）の連名にて TICADV に係る栄養問題に係る 3 団体の請願書をこの度、作成し世界銀行東京事務所谷口和繁特別代表に送った。 また白須代表から安倍首相のシェルパを務める外務省の鶴岡公二外務審議官に何度もコンタクし、6 月 8 日にロンドンで行われるハイレベル栄養イベントや G8 サミットにおける栄養問題の取り組みを強化してもらうべく鶴岡審議官へ栄養問題に係る 3 団体請願書を送った。SUN への取り組み強化への可能性を探求するとともに、日本が地道に継続してきた栄養政策の知見を有効活用出来ないかという観点で活動する予定。
11 日	つなみ募金、今月も水道橋で 東日本大震災から 2 年 1 か月が過ぎた。今月もハイチ、東日本大震災復興支援の為、11 日に水道橋駅東口でつなみ募金を実施した。2 年以上過ぎても東北の被さい地はまだまだ支援が必要だ。日本リザルツは釜石市を中心に復興支援活動を行っている。少しでもお役に立てれば、と駅を行き交う人へ声掛けした。今回もエマウス・メディカル・ジャパンの皆様に参加していただいた。  釜石の心の温かみ 釜石市橋野町栗橋公民館中村分館の皆さんと地域復興活動と施設活用について、話し合いを行った。参加者は地元橋野町中村地区の主な役員 6 名と三陸ひとつなぎ自然学校の伊藤聡さん、橋本かな子さん、日本リザルツスタッフ。今後の取り組みや利用状況等について意見・情報交換を行った。 

	TICAD Vにおける市民社会の参画を国会議員の先生方へ提言 TICAD Vにおける NGO の取り組みについて公明党へ提言する機会が有った。公明党青年委員会平和外交ワーキング・チームに招かれ、国際協力に知見の高い谷合正明参議院議員と石川博崇参議院議員が主導し、出席した外務省と NGO からそれぞれ説明をさせていただいた。両議員にも熱心に聞いていただき、その後の状況についてもぜひ教えて欲しいと心強いコメントをいただいた。	
14 日	亀田選手が 釜石・東和へ！ 日本リザルツはボクシング世界王者 亀田興毅選手を岩手にお呼びし、国立釜石病院・岩手県立釜石高校・folkloroいわて東和三か所での復興イベントをコーディネートした。初めに国立釜石病院にて、患者さんと交流。亀田選手がいらしたことで患者さん、病院の皆さん 大変喜んで下さった。続いて岩手県立釜石高校に移動。亀田選手からボクシング部へグローブのプレゼントがあり、そのお返しとして部員からミニ虎舞と震災前後の釜石市内の写真と寄せ書きが手渡された。最後にfolkloroいわて東和に移動、復興もちつき大会、ちびっこ青空ボクシング教室に参加していただいた。亀田選手、駆けつけてくれた姫井由美子理事 ありがとうございます！	 
18 日	復興の花「はまゆり」で釜石に元気と明るさを リボンフラワー講座 日本リザルツは、皆様のご支援により仮設住宅を中心にリボンフラワー講座を行っている。本日は小雨となったが、5回目となる石垣邦子さんによるリボンフラワー講座を甲子第3仮設住宅にて行い、12名の方々にご参加いただいた。リボンフラワーの「はまゆり」で釜石に元気と明るさを広めている。	
19 日	TICAD Vにおける市民社会の参画を国会議員の先生方へ提言 自由民主党の国際協力調査会に参加し、TICAD Vにおける市民社会参画について提言を行った。	

	本件は、白須の要請を受けて AU 議連の会長でもある逢沢一郎衆議院議員から三原朝彦衆議院議員を紹介され、先日、三原議員と面会。今回の TICAD V における成果文書において市民社会の参画及びフォローアップのメカニズムにおけるに対する支援をいただけるようお願いしたことを受けて今日の会議に招かれたもの。TICAD V までまだ時間がある。国会議員のご支援をいただきつつ、ぜひ TICAD V で市民社会の参画等が成果文書に明記されるよう頑張っ て参りたい。 ハーグ条約に関する衆議院法務委員会 国際的な子の奪取の民事上の側面に関する条約（ハーグ条約）の実施に関する法律案の法案審議が行われ、日本リザルツのメンバーも傍聴した。参考人として有識者の方をはじめ、実際に子の引き離しにあった当事者の方も参加され、各党からの質問に対しそれぞれの立場からの発言がされていた。
23 日	TICAD V における市民社会の参画について～外務省との対話等 外務省にて第 4 回 TICAD V に関する外務省・NGO 対話が実施された。今回は TICAD V での事前会合では最後になる。ここでも改めて外務省に対して市民社会の参画を TICAD 強く訴えた。最後に白須代表からこれまでの TICAD V のご苦勞への労いと今後の成功に向けたご尽力への期待を込めて外務省の麻妻信一アフリカ部アフリカ第二課長へ花束贈呈も行い最終的には和やかに終わった。午後には TICAD V NGO ファシリテーショングループメンバーを中心に民主党の岡田克也衆議院議員を訪問し、実情を説明した。
25 日	JICA との面談 JICA にて力丸 徹国際協力専門員(栄養保健)と国際栄養問題について深く話し合う機会があった。当方はセーブ・ザ・チルドレン堀江由美子さん、ワールド・ビジョン・ジャパン高橋真美さん、日本リザルツ和田耕太郎アドバイザー、鰐部。 力丸さんからは SUN に至る経過に関連 「コペンハーゲン・コンセンサス」 「Lancet 2008. Vol. 371」 が基となったこと、SUN の取り組みとしてはグアテマラ、ザンビア、エチオピアの 3 カ国での実施があること、JICA の保健分野における技術協力で主なもの「母子保健」「感染症予防対策」であ



	ること、どちらも栄養改善対策は含まれるとしても全体の中の一部であり栄養分野の専門家が加わることは殆どないこと、SUNにおける栄養改善の取り組みはサプリメントの利用が主であること等、貴重な話を多く伺うことができた。
26 日	釜石「石鹼作り」講座@川目 石鹼作り講座を釜石の片川集会所にて行った。上村年恵さんが講師で 10 名の方々が参加した。石鹼は、私たちの暮らしに欠かせないが過度な薬品を使わず、出来る限りシンプルにするために廃油を活用するのが良いとのこと。てんぷら油の廃油を捨てずに活用すれば、海に流れる汚水も改善される。きれいな海でとれる魚は最高であり、この石鹼を使えば、市販の洗剤より汚れがきれいに落ちる。漁協組合女性部の知恵といえるこの講座を更に広げていきたい。 
30 日	ハイチ結核診断について 最近、日に日に暑くなっていくハイチ。首都ポルトープランスのデルマ地区にある、グレース小児病院。こちらには、市内でも有数の結核クリニックがあり、毎日多くの方が訪れる。ハイチでの結核診断は、喀痰を染色して行う顕微鏡検査がほとんどだが初診から治療に入るまで、早くても 4 日はかかる。中には、体調が悪く自分で立っていることすら困難な方もいる。そういう人達が、より迅速に「陽性」と判断されれば、1 日でも早く治療を受けられる。栄研化学が開発した LAMP 法（遺伝子増幅法のひとつ）は、従来の方法に比べて、より迅速に、そして正確に結核の診断ができるため、ハイチをはじめ多くの国で注目されている。より多くの場所で実用化されることを目指していきたい。  世界銀行東京事務所との面談 世界銀行東京事務所にて谷口和繁駐日特別代表、開裕香子広報担当官、中山莉彩業務調整官(保健・広報)と面談。セーブ・ザ・チルドレン堀江由美子さん、ワールド・ビジョン・ジャパン柴田哲子さん、高橋真美さん日本リザルツ和田耕太郎アドバイザー、鰐部。 世界銀行からの説明では SUN における栄養改善は実験的なプロジェクトが主流になる。また日本政府に対して 2011 年から 4 年間で合計 20 百万ドルの要請を行っており、財務省を主体として受け入れるべく順次進んでいる

	とのこと。誠に興味深い内容であり、早速各関係機関に確認等を行った。
5 月	
2 日	内閣府・食育推進担当との面談 内閣府(合同庁舎 4 号館)にて国内の食育政策を担当している方と栄養問題について話した。面談者は福田和久参事官補佐(食育推進担当)、清野福久江参事官補佐(食育推進担当)。当方はワールド・ビジョン・ジャパン柴田哲子さん、高橋真美さん、日本リザルツからは和田耕太郎アドバイザー、白須紀子代表、鰐部。内閣府の方から以下の説明があった。 食育事業は、主に農林水産省と厚生労働省が担当しており、食育教育として食に関わる取り組みを行っている。日本はこれまで栄養改善の取り組みにおいては、サプリメントの利用は行っておらず、あくまでも食生活の改善を中心とした取り組みをしてきた。主としてボランティアを養成して、食育の推進に関わる活動を進めている。日本のこれまでの栄養改善の取り組み等について海外に情報を発信することはしていないのが実情である。
7 日	ワクチン予防議連 ワクチン予防議員連盟が衆議院第二会館にて開催された。この議員連盟は、いのちを守るワクチンを国内はもとより海外においても普及させるために設立されたもので、第一回総会として今回、自民党、公明党の先生方が参集された。現在、ワクチンを普及させる上で内外において未だ多くの問題がある。国内ではワクチンの予防接種の体制等、例えば子供に提供できるワクチンへの種類、また副作用の少ないワクチンの供給などが現在、議論されている。一方、世界に目を転じると、現在、2,200 万人以上の乳幼児が死に至る病気を防げるワクチンの接種を受けていない。現在、途上国において 5 歳未満でいのちを落としている子供の 5 人に 1 人はワクチンで防げる病気が原因で亡くなっている。その内、30%は肺炎と下痢が原因だ。今後、日本が国際社会に貢献していくために途上国におけるワクチンの予防接種の向上に確り取り組む必要がある。さて当日は大変多くの方々が参加した。国会議員は 17 名、国際機関、省庁関係者が 8 名。その他を含めて 70 名以上の方々が出席し、ワクチンの問題への関心の高さが感じられた。まず司会の古屋範子衆議院議員からご挨拶があり、役員に選出された各議員から一言、ご発言をいただいた。その後厚生労働省からは中国の鳥インフルエンザの問題、GAVI アライアンスの北島千佳上級資金調達官から GAVI の活動などについて説明があった。参加された各議員の方々からも熱心な質問がありワクチン予防議連第一回総会は盛況のうちに終了した。多



	くの議員の方々が集ったワクチン予防議員連盟、日本リザルツは確りサポートしていきたい。
8 日	TICAD V NGO コンタクトグループ 外務省岡村アフリカ部長へ談判 外務省の岡村善文アフリカ部長を多くの NGO が訪問し、TICADV 成果文書への市民社会の参画を改めて強く要請した。TICAD V の責任者である麻妻信一アフリカ部アフリカ第二課長も出席し、本番直前の要請を行った。 
10 日	TICAD V NGO コンタクトグループの会合に参加 TICAD V 本番前では最後の NGO のコンタクトグループ会合に参加した。 いよいよ本番が近づく中、期間中の対応を含めて色々協議した。各団体がどのような催しを行うかなどを話し合い、いよいよ本番が近づいていることを感じさせられた。  今月もつなみ募金 本日初夏らしい日差しの中で、ハイチ・東日本大震災復興支援のため、水道橋駅東口付近でつなみ募金をおこなった。今回もエマウス・メディカル・ジャパンの皆さんと親子ネットの皆さんが、応援に駆けつけてくれた。  三度目の初夏を迎えようとしている東北の被災地は、まだまだ復興の道半ば。日本リザルツは、これからも息の長い支援活動をめざして募金活動を続けていく。
11 日～12 日	アフリカン・フェスタ 2013 盛況のうちに幕を閉じたアフリカン・フェスタ 2013。11 日の土曜日はあいにくの雨だったが、朝からボランティアの皆さんが応援に駆けつけてくれ、来場者に GAVI アライアンスや国際連合パレスチナ難民救済事業機関等のたくさんのパンフレットを渡すことができた。  翌日は五月晴れで、来場者の方々がゲートの前に並んで開始を待っていた。日本リザルツのブースにも、沢山の方が訪れてくれた。
16 日	栄養問題について外務省各関係室との面談 外務省にて来る飢餓栄養サミットを前に栄養問題を話し合った。面談者は

	経済局政策課大河内昭博企画官，藤井直幸外務事務官，国際協力局開発協力企画室大日方牧人外務事務官，国際協力局国際保健政策室宮城杏奈経済協力専門員。当方はセーブ・ザ・チルドレン堀江由美子さん、ワールドビジョン柴田哲子さん、高橋真美さん、日本リザルツからは和田耕太郎アドバイザー、白須代表、鰐部。討議内容としては6月8日 飢餓・栄養サミットと6月17・18日 G8首脳国会合が中心。外務省としては日本としても首脳レベルで意識を高めるべきと考えており、ポスト MDGs についても現行の MDGs の着実の取り組みが重要と認識していると。またアフリカの国別協力の枠組みについて取り組んでいく。現在の段階では、SUN への今後の資金協力は不透明と。予算のない中でどういう取り組みがあるのか考慮するとの発言であった。
25 日～26 日	イボンヌ・チャカチャカさん、被さい地へ往く 南アフリカ出身の歌手でアフリカ大陸のみならず世界に知られているイボンヌ・チャカチャカさん（Yvonne ChakaChaka）が岩手県釜石市と陸前高田市を訪れた。イボンヌさんは 21 枚のプラチナアルバムを獲得した南アフリカの世界的な歌手で、マラリア対策の活動家としても有名な方だ。1980 年代に当時アパルトヘイト体制にあった南アフリカにおいて黒人女性歌手として初めてテレビに出演し数々の歌をヒットさせ、映画「ホテルルワンダ」（2004 年）の挿入曲 Umqombothi（African Beer）は特に名高い。2004 年に自身のバンドメンバーがマラリアで命を落としたことを契機に、自らの知名度を活かして世界のマラリア対策問題に向けた啓発活動を始め、現在、ロールバック・マラリア・パートナーシップや UNICEF の親善大使などを務めている。昨年 1 月の世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）では、マラリア問題に対する長年の活動が評価され、アフリカの女性としては初めてのクリスタル賞を受賞した。 今回の来日は、横浜で 6 月 1 日～3 日に開かれる TICAD V に併せてアフリカにおける予防接種の重要性と日本の GAVI アライアンスへの支援強化へ向けたアピールを行うことと共に、被さい地を訪問して大変な災害に遭われた方々と会い、その方々の現在の状況を知りたいという希望があり、GAVI アライアンスと日本リザルツが共同で招聘。以下のような訪問を行った。 5 月 26 日、イボンヌ・チャカチャカさんが被さい地である岩手県釜石市と陸前高田市を 1 日（朝 8 時～夕方 6 時まで）かけて訪問した。まず鶴住居の防災センターへ到着。今も津波の爪痕が残る姿に「言葉が出ない」と。今回、 

	一緒に来日しているプリンセス・オブ・アフリカの理事でイボンヌさんの人道支援活動アドバイザーのルイ・ダ・ガマさんと一緒に手を合わせ、その後、駆け付けてくれた古川貞治さんのご自宅跡に行き、お花とお祈りを。鵜住居の仮設住宅では幸道秀樹先生が仮設住宅の方とお話しされている時に一緒になって熱心に状況を見聞した。 仮宿の佐々木勝子さん宅で津波が来た時の様子をDVDで視聴。その凄まじい様子に驚き、亡くなった方を悼み、ここでもお花を捧げた。箱崎の仮設社宅では皆様と心温まる交流があった。2019年ラグビーワールドカップの候補地にも立ち寄り、イボンヌ・チャカチャカさんはぜひここで開催して歌いたい。その後、陸前高田市の滝の里仮設住宅へ。一本松を見て。安倍晋三首相も訪れた追悼施設で再び手を合わせた。手向けた花束は南アフリカでよく見かけるお花カラーと日本の代表的なお花である菊を一緒にしたものでイボンヌさんの発案で用意した。 イボンヌ・チャカチャカさんからのメッセージ。 「被さい地を訪問して辛い気持ちを隠して笑顔で迎えてくれた方々の気高い気持ちは忘れられません。先進国でも開発途上国でも、苦しんでいる人たちは全く変わらないという思いを一層強くしました。私達は国を超えて気持ちを一つにすることが大切です。皆さんには、あなた方は忘れられていない。一人ではないということを伝えたいと思います。」
28 日	イボンヌ・チャカチャカさんの外務省訪問 メディアとのインタビュー等忙しい合間を縫って、イボンヌ・チャカチャカさんは外務省を訪問した。これは外務省で今回、TICAD Vを支えるスタッフを激励したいという彼女の希望によるものだ。特に当日、会場にも行かないで会議を支えているスタッフがいることを聞き、差し入れを持ってアドバイザーのルイ・ダ・ガマさんとともに急遽、訪れることになった。国際協力局の飯田慎一地球規模課題総括課長と小沼士郎国際保健政策室長が歓迎してくれた。国際保健政策室の石井みのりさん、GAVI アライアンスの担当でもあり、二人でしっかり握手し、岡村善文アフリカ部長にもご挨拶した。その後に TICAD V 事務局を訪問。歓迎の拍手が有った。



29 日	イボンヌ・チャカチャカさん、公明党、野田聖子議員、ミーシャを訪問 午前、公明党山口那津男代表を訪問。同党からは松あきら副代表、谷合正明参議院議員、岡本三成衆議院議員が同席された。対談は予定を超え、1時間近くに及び、ネルソン・マンデラ元大統領との出会いから東北被災地、感染症対策に賭ける思いなどを多くのことに及んだ。何よりもアフリカにおいては子供の為にワクチン対策が急務であること、GAVI アライアンスへの支援が強化されるべきであることを確りとイボンヌさんは伝えた。苦しんでいる人はどこでも一緒。互いに助け合い、気持を一つにすることが大切と、被災地で思いを強くされたイボンヌ・チャカチャカさんのお話しに、深く共感された松あきら副代表が感激し涙に咽ぶ場面もあった。その後、自民党の野田聖子総務会長を訪問した。野田議員には女性として、そして母として力強く行動されるその姿に共感して訪れたもの。また政権与党の要職に就かれている先生にワクチンの重要性和 GAVI 支援について理解を求めた。この日は TICAD V 親善大使であるミーシャとの対談も行われた。音楽という共通の世界で活躍し、アフリカの問題を共有する二人による活発な対談となった。
30 日	安倍首相、麻生財務相へ GAVI アライアンスへの支援を訴える イボンヌ・チャカチャカさんは首相官邸にて安倍晋三首相と面談した。GAVI アライアンスからはセス・バークレーCEO と北島千佳上級資金調達官も同席した。イボンヌ・チャカチャカさんはアフリカではまだまだ子供にワクチンが足りないこと、GAVI アライアンスへの一層の支援強化について説いた。セス・バークレーCEO からも補足でコメントがあった。安倍晋三首相からは「GAVI に対する支援は今後も日本政府として強化していきたい」との意向表明。その後、財務省に麻生太郎副総理兼財務大臣を訪ねた。麻生太郎副総理兼財務大臣から GAVI への支援状況や日本のワクチン開発の動向について質問され、北島千佳上級資金調達官が状況を説明。二人の日本政府の最終決定者に



	対してワクチンの重要性や GAVI 支援を訴える仕事は完了した。 国際連帯税フォーラム主催「アフリカの発展と国際連帯税・金融取引税に関するシンポジウム」 アフリカ開発会議の関連イベント第一弾として、横浜にて、白須代表が代表理事を務める国際連帯税フォーラム主催のイベント「アフリカの発展と国際連帯税・金融取引税に関するシンポジウム」が開催された。国際連帯税は、アフリカの飢餓、気候、保健問題に対応する革新的な資金メカニズムだ。アフリカの歌姫イボンヌ・チャカチャカさんも特別ゲストとして、国際連帯税に対する支持とアフリカへの支援を、力強いスピーチと美しい歌声で訴えた。 
31 日	結核予防会・ストップ結核パートナーシップ日本主催 TICAD V 公式サイドイベント「アフリカの結核をゼロに！」 白須代表が代表理事を務めるストップ結核パートナーシップ日本と結核予防会主催のシンポジウム「アフリカの結核をゼロに！」が開催された。ケニアやスーダンにおける現在の結核の状況や、ザンビアにおける日本の貢献等、興味深いスピーチの後、医薬基盤研究所 霊長類医科学研究センター長の保富康宏教授の「日本発の技術貢献：ワクチン」と栄研化学株式会社の梶谷伸一研究開発統括部長付部長の「日本発の技術貢献：診断法」など、日本の未来の展望を想う講演が続いた。またイボンヌ・チャカチャカさんのスピーチ、ザンビアの CITAM+ の代表にてアクション・ネットワークのディレクターの一人であるキャロル・ニレンダさんからも発表があり、大変充実した内容であった。尚、日本リザルツは、栄研化学がハイチで行っている「TB-LAMP 法」の官民連携プロジェクトに参画している。 TICAD V サイドイベント GAVI アライアンスシンポジウム GAVI アライアンス主催、日本リザルツ、ユニセフ東京事務所共催、外務省後援による TICAD V サイドイベント～シンポジウム『アフリカの子どもたちの健康を守るために：予防接種の成果と可能性』がパシフィコ横浜アネック 

スホールにて開催された。阿部俊子外務大臣政務官、セス・バークレーGAVI アライアンス CEO、エチオピア民主連合共和国外務大臣テドロス・アドナム博士のスピーチの後、ここでも、アフリカの歌姫イボンヌ・チャカチャカさんが登場し、我々の活動に対する応援メッセージと美しい歌声を披露してくれた。後半のパネルディスカッションでは、平林国彦ユニセフ東京事務所代表、岩井亨大和証券株式会社広報部副部长、古屋範子衆議院議員が出演し、アフリカにおける予防接種の重要性と、発展途上国にワクチンを提供するための官民のグローバルパートナーシップ組織である GAVI アライアンスが果たす役割を語り合った。またセス・バークレーGAVI アライアンス CEO が、GAVI アライアンスの概要を紹介した。キャロル・ニレンダさんを始め会場の参加者の皆様からもたくさんのご意見、ご質問をいただき、活発な議論が交わされた。



TICAD V 期間中のパーティーにイボンヌさんも出席

TICAD V の期間中にイボンヌ・チャカチャカさんはパーティーにも多く参加した。TICAD V 開幕直前に安倍晋三首相と林文子横浜市長がホストとなってロイヤル・パーク・ホテルで開催されたウェルカム・レセプションに参加。本レセプションにはルイ・ダ・ガマさん、白須代表も参加し森喜朗前首相ともお会いすることができた。6月2日には世界基金とロール・バック・マラリア主催によるレセプションに主賓待遇で参加した。イボンヌさんは会場に通されると各界著名人物とともに早速壇上へ。逢沢一郎衆議院議員、エレン・サーリーフリベリア共和国大統領、マーク・ダイブル世界基金事務局長、バン・ギムン国際連合事務総長、ファトゥマタ・トラオレロールバックマラリア事務局長そしてイボンヌ・チャカチャカさんの各氏から夫々スピーチがあった。イボンヌ・チャカチャカさんは歌とともにアフリカへの支援を訴えた。会場には世界銀行のジム・キム総裁、GAVI アライアンスのセス・バークレーCEO、コロンビア大学のジェフリー・サックス教授など錚々たるメンバーが集結した。まさに TICAD V で集まった重要メンバーの会といえるものだった。



6 月	
1 日	日産スタジアム ランフォーアフリカ 日産スタジアムにてアフリカ支援を目的に 4 時間リレーマラソン ランフォーアフリカが開催された。このマラソンの参加費の一部はアフリカの支援活動事業に充てられる。ランフォーアフリカの応援にもイボンヌ・チャカチャカさんと、我々日本リザルツのメンバーも駆けつけた。彼女の応援メッセージと美しい歌声は日産スタジアムに響きわたり、これからスタートするランナー達に、そしてアフリカの人々にも元気と力を与えてくれた。子ども達と一緒に走るイボンヌ・チャカチャカさんの気さくなパフォーマンスに子ども達も大喜びだった。 国際シンポジウム「エイズを考える：アフリカと日本の共通課題」 外務省主催によるシンポジウムにイボンヌ・チャカチャカさんとともに参加した。主催者として、安倍昭恵首相夫人、林文子横浜市長などが、発言され、アフリカ諸国からも各国の大統領夫人やエイズと闘う協会・団体の代表者の方々が意見を述べた。自国でのエイズの問題について語るザンビアの大統領夫人とシンポジウム後にキャロル・ニレンダさんが語り合う場面等あった。  
2 日	日本リザルツ主催 TICAD V 公式サイドイベント「ソマリア紛争、海賊問題を考える」 日本リザルツ主催、ソマリア連邦共和国、JSECO（日本ソマリア経済文化オフィス）共催の TICAD V 公式サイドイベントを開催した。テーマは「ソマリア紛争、海賊問題を考える」。白須代表のソマリア語によるオープニング・スピーチから始まり、ハッサン・シェイク・モハンメドソマリア連邦共和国大統領、逢沢一郎衆議院議員の力強いご挨拶、アフリカの歌姫イボンヌ・チャカチャカさんの美しい歌声で、前半から多いに盛り上がった。続いてのパネルディスカッションでも、谷合正明参議院議員、奥野総一郎衆議院議員、ソマリア連邦共和国 副団長兼副財務  

	大臣、最勝寺潔海上保安庁総務部参事官、森谷祐司 JICA アフリカ部次長、伊藤 誠外務省 TICAD V 担当大使による、活発で深い議論が行われ、その後の TICADV 学生プロジェクトの加藤 翼さんと日本ソマリア青年機構 アブディラマン・オラドさんの提言まで、お蔭様で大盛況のうちに無事終了することが出来た。ソマリア連邦共和国は、新しい一歩をようやく踏み出したところ。これからも真の支援ができるように、日本リザルツは取り組んでいきたい。
3 日	TICAD V 本会議 サイドイベントが落ち着いた 6 月 3 日に日本リザルツスタッフは交代で TICAD V 本会議に参加した。今回の TICAD V には 51 か国が参加し、39 名のアフリカ首脳が参加したとのこと。会議の途中では首脳が入ったり出たりと個別の会談も盛んだった。 日本リザルツのブース TICAD V の期間中、日本リザルツはパシフィコ横浜の会場にブースを出して、結核、ワクチンの重要性を訴える活動を行った。関係者一同で。 CSO 団体の記者会見 TICAD V を締めくくる CSO 団体は記者会見を行った。最後は WE LOVE AFRICA で！   
8 日	親子ネットの勉強会に参加 別居もしくは離婚後、片方の親に連れ去られた子どもと面会交流することが難しい状況にある方々の会合に参加した。5 月 22 日の参院本会議で可決されたハーグ条約は、国際離婚の際の子どもの親権・養育権に関する国際法で、日本の加盟は国際的にも大きな意味を持っている。現在の日本の法律では離婚後の親権は片方の親にしか与えられていないため、この単独親権制度を変えることが求められている。この制度の下では、離婚後に親権を失った片親が子どもと会うためには親権をもつ親の合意が必要になるが、ほとんどの場合、面会交流は認められず、認められたとしてもごく限られた時間しか面会は許されない。ハーグ条約への加盟は、日本の国内法を変えていくために重要な意味があり、親子ネットの方々や多くの子どもと離ればなれになってしまった片親の人達が求める「親子新法」の制定に

	向け、より多くの人が連帯し活動を進めていく段階に入ったことを示しているようだ。今回の親子ネットの勉強会に参加させていただき、当事者ではないながらも、親子新法の制定はこれからの日本の社会にとって大事なことだと思った。また当事者である、なしにかかわらず、より多くの人が連帯し、協力して活動が続けていくことが、活動をさらに大きく進めていく鍵だと思う。子どもの成長と幸福のため、子どもが親の愛情を受ける権利を守るため、人権運動が続けられている親子ネットの皆さんの活動をこれからも応援していきたい。 国立健康・栄養研究所 国際栄養研究室との面談 国立健康・栄養研究所にて栄養疫学部瀧本秀美部長、西信雄国際産学連携センター長、国際栄養研究室三好美紀室長と面談した。NGO 側はワールドビジョンの高橋真美さん、日本リザルツの和田耕太郎アドバイザー、鰐部。同研究所の国際栄養の取り組み対象としては、アジア・太平洋地域のみであり、アジア・太平洋地域を対象として国際シンポジウムの開催を行っているとのこと。また海外からの研修生を受け入れているが、研修内容については、それぞれの研修元の希望に応じて同研究所の研究室で受け入れて行っている。国レベルの栄養調査を日本では毎年実施しているが、先進国も含めて同様な取り組みをしている国は見当たらない。アジアからの研修生の受け入れで、日本の国民栄養調査について学ぶ研修生が出てきているとのこと。尚、SUN との関わりはないとのこと。
11 日	恒例のつなみ募金 東日本大震災から 2 年 3 か月が過ぎた。今月もハイチ、東日本大震災復興支援の為、昨日 11 日に水道橋駅東口でつなみ募金を実施した。雨の降る水道橋駅前には人で溢れており、通りかかる人々の一人でも多くの方に『東北を忘れないで！』の思いを込めて呼びかけた。エマウス・メディカル・ジャパン、親子ネットの皆さんに今回もご協力いただいた。 
12 日	「国際連帯税創設を求める議員連盟」の第 2 回総会が開催 今後の進め方も含め、幅広い協議が行われた。司会はいつもと同じく石橋通宏参議院議員が務めた。開会挨拶は川口順子会長。自民党内での説得に向けて自ら動き回る旨、力強く話された。また自由民主党税制調査会長や国際連帯税の議連会長を歴任され、この分野の造 

	詣が深い津島雄二先生が来られ、数々の意義深いご発言をいただいた。外務省から飯田慎一地球規模課題総括課長が出席され、ぜひ協働していきたいと。丁度、朝日新聞に国際連帯税の記事が掲載され、また神奈川新聞などにイボンヌ・チャカチャカさんのインタビューとともに5月30日に横浜で開催された国際連帯税シンポジウムが紹介されている。本邦での国際連帯税導入に向けた動きが始まりつつある。 TICAD V NGO コンタクトグループの会合に参加 TICAD V NGO コンタクトグループの会合があった。TICAD V が終わり、NGO の各団体で TICAD V の報告書の作成及び今後の課題について話し合った。今後の課題について色々な話が出た。例えば、市民社会の参画についての評価、アフリカ市民社会との協働、TICAD VI に向けた新たなネットワーク。これらの問題は来月に報告書を纏めるとともに外務省との定期協議会で一層踏み込んで話し合うことになる。TICAD VI への動きは始まっている。
13 日	栄養アドボカシーで財務省を訪問 日本リザルツが主導して栄養問題の NGO 同盟 3 団体（日本リザルツ、セーブ・ザ・チルドレン、ワールド・ビジョン・ジャパン）が財務省を訪問した。財務省で現在、SUN イニシアティブを担当しているのは橋本秀憲国際局開発機関第一係長。初めての面談だったが、日本政府の取り組みについて熱心なご説明をいただいた。日本は 2010 年 SUN に対してまず試行的に U\$2MIL を供与し、その後、2011 年から 2014 年までの 4 年間に毎年 U\$5MIL、合計 U\$20MIL を拠出することにコミットしている。これまで NGO の中で日本政府が栄養問題に主体的に取り組んできていることに注目している団体は少なかったようであり、財務省の橋本係長とは今後も色々な場で情報交換を行っていくこととなった。
14 日	白須代表が釜石訪問 白須代表が釜石を訪問した。JR 釜石線の 1 番列車で釜石駅に着くとすぐに、市役所本庁舎にて嶋田賢和副市長、佐々木勝復興推進本部事務局次長と対談。イボンヌ・チャカチャカさんの釜石訪問の報告や、2019 年ラグビーワールドカップを釜石に誘致する運動、高齢者および妊産婦の健康生活に役立つシステムの開発と展開等が話題になった。 その後は、震災後 2 年 3 か月が経過した釜石の今を視察した。 

19 日	イボンヌ・チャカチャカさんの記事 TICAD V で大活躍したイボンヌ・チャカチャカさんのことを新聞社各紙が取り上げて記事になったものを紹介する。 イボンヌ・チャカチャカさん新聞記事一覧 1. 2013. 5. 27 毎日新聞 ・・・・＜雑記帳＞ 2. 2013. 5. 27 岩手日報 ・・・・寄り添う心南アフリカから 3. 2013. 5. 28 サンケイ新聞 ・・・・「アフリカの歌姫」被災地で献花 4. 2013. 5. 29 岩手日日 ・・・・被災地訪れ献花 5. 2013. 5. 29 東京新聞 ・・・・夕刊＜聞き事＞ 6. 2013. 5. 30 岩手日報 ・・・・県内被災地を訪れた南ア出身の歌手 イボンヌさんに聞く 7. 2013. 5. 30 サンケイ新聞 ・・・・＜きょうの人＞ 8. 2013. 5. 30 公明新聞 ・・・・アフリカの歌姫イボンヌさんとの懇談 9. 2013. 6. 1 復興釜石新聞 ・・・・釜石訪問 仮設住民にエール 10. 2013. 6. 1 公明新聞 ・・・・T I C A D きょう開幕 11. 2013. 6. 1 読売新聞 ・・・・アフリカ夢対談 12. 2013. 6. 1 神奈川新聞 ・・・・真の豊かさとは 13. 2013. 6. 2 公明新聞 ・・・・W e e k l y K O M E I 14. 2013. 6. 3 朝日新聞 ・・・・＜ひと＞ 15. 2013. 6. 3 公明新聞 ・・・・”人間の安全保障” 確立を 16. 2013. 6. 3 公明新聞 ・・・・＜直言＞
20 日	リボンフラワー『はまゆり講座』 岩手県釜石市鵜住居町日向 E 仮設住宅談話室にて、リボンフラワー『はまゆり講座』を行った。講師は石垣邦子さん。『はまゆり』は、釜石の市の花とされていて、「北限のはまゆり」とも言われている。『はまゆり』（浜百合）ですから多くは浜で見かけるが、当然津波で無くなってしまっただろうと残念に思っていた 2011 年夏、山際にひっそりと咲いているのを見つけ、石垣さんは「やっぱり『はまゆり』は素晴らしい！！津波で少なくなった分リボンフラワーでいっぱいにしよう！」と、この活動を広めているそうだ。



21 日	ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会にて 衆議院第二議員会館の会議室にてストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会が開かれた。先日開催された第5回アフリカ開発会議(TICAD V)のサイドイベント「シンポジウム・アフリカの結核をゼロに！」と、外務省やJICAからは「国際保健外交戦略」に関して情報共有があった。日本リザルツは「アフリカの歌姫」イボンヌ・チャカチャカさんが来日された際の模様を紹介した。司会進行の高階恵美子参議院議員（ストップ結核パートナーシップ日本（STBJ）推進議員連盟・副会長）からも、党派を超えて日本の国際保健・結核予防の推進を進めていく力強いお言葉をいただいた。谷合正明参議院議員、赤枝恒雄衆議院議員、高橋千鶴子衆議院議員からは、夫々人間の安全保障、国際保健において感染症対策・母子保健・栄養改善を含め、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)という理念の重要性が高まっているとの話が有った。外務省小沼士郎国際保健政策室長、JICA 渡邊学人間開発部次長、厚生労働省からは山内和志国際協力室長が国内における UHC の主流化の推進などに関して説明いただいた。「アフリカの結核をゼロに！」という TICAD V のシンポジウムで確認したように、このタイトルは単なる“夢”ではなく“挑戦”であり、官民の連帯によって日本の国際保健支援を推進していくことが重要であるとの説明が有った。
22 日	廃油利用の固形石鹼作り講座 岩手県釜石市唐丹町の小白浜仮設住宅談話室にて、廃油利用の『石鹼作り講座』を行った。講師の上山年恵先生は、小白浜仮設の住民かつ、自治会長夫人であり、唐丹町漁協婦人部長でもある。この日は東京都の和田紀子さん・中村圭子さん・大澤導子さん・稲沢靖子さんから送られた紅茶やお茶菓子をいただいた。お手紙も先生が読んで、皆さんに紹介された。23 日も昨日に引き続き『石鹼作り講座』を、釜石市平田(へいた) 平田第1 仮設住宅談話室にて行った。



23 日	国際連帯税フォーラム第3回総会、講演会に参加 年に一度の国際連帯税フォーラム第3回総会と講演会が青山学院大学で開催された。理事会では20人以上の方々に参加され、講演会では現在、岩波新書にて『タックス・ヘイブン-逃げていく税金』を著した弁護士志賀櫻先生が登壇されたことから70名近くまで参加人数が膨らみ、盛況となった。講演会では志賀先生からタックス・ヘイブンを軸にした約2時間に亘って密度の濃い講義がなされた。タックス・ヘイブンを助長する、脱税に近い租税回避行動は低税率国の問題のみならず、秘密保持を助長する法制や緩い金融規制等を容認する国々の姿勢にも支えられているとのこと。国際連帯税フォーラムでは、地球規模課題に対応する革新的な資金創出メカニズムを本邦で導入することが重要だが、一方で逃避するマネーを国際的な課題解決に利用できるよう考えていくことも大切と考える。今回のセミナーは誠に意義深いものであり、講演の最後には多くの意見や質問が寄せられた。  
26 日	もうすぐ帰国。ハイチの首都ポルトープランス 栄研化学株式会社と日本政府による官民連携事業として、4月からハイチで続けてきたLAMP法事業も、もうすぐ終了する。お世話になったグレース小児病院の検査技師の忙しいながらも明るく楽しく働く姿に、いつも助けられた。実際に現場で毎日患者と接している彼らは、通常、ハイチを始めとした多くの途上国で結核診断に使われている顕微鏡検査よりも、より迅速に、そして正確に診断できるLAMP法の必要性を訴えている。LAMP法が、一日も早く結核診断の一つのスタンダードとなるために、そして、世界にまだ多く存在する結核患者を救うために、今回の事業で得た成果を活用していきたい。 TICAD V NGO コンタクトグループ@日本リザルツ事務所 TICAD V NGO コンタクトグループの会合があり、市民社会の参画についてこれまでの評価と今後の取り組みについて日本リザルツ事務所に集まり議論した。TICAD V NGO コンタクトグループは昨年6月に結成され、今年6月に開催されたTICAD Vを契機としてアフリカ 

	で起こっている様々な問題、例えば飢餓、農業支援、気候、保健等について TICAD V の主催者である外務省や共催者である国際機関やアフリカ連合委員会等へ提言活動を行ってきた。また市民社会が TICAD V のパートナーとしてそのフォローアッププロセスを含めて主体的に参加するべきと強く訴えてきた。今回は私達の数々の主張の中でも市民社会の参画について総括を行ったもの。
30 日	TICAD V のお礼状 TICAD V では本当に多くの方々にご支援、ご協力を戴きリザルツスタッフ一同、心から感謝している。そのお礼と日頃の感謝の気持ちを込めてお世話になっている皆様にお礼状を出させていただいた。TICAD V で大活躍してくれたイボンヌ・チャカチャカさんのポストカード 1000 枚が用意できたので、感謝の気持ちをどうやって、日頃お世話になっている皆様にお伝えしたら良いかを考えた結果、一枚一枚手書きでお送りしようということになった。ポストカードが出来上がった 7 月 1 日午後からスタッフ全員で、それぞれがお世話になった方々に手書きのお礼状を書き始めた。字を書くのが苦手なスタッフも、忙しい仕事を抱えているスタッフもみんな頑張って書き、出張の移動中に書いた人、夜中に自宅で書いた人、お昼休みに書いた人、いろいろであり、多少読みにくいものもあるがどうぞお許し願いたい。 『小さな積み重ねが将来大きな成果（リザルツ）を導いてくれる。』 私たちはこの気持ちを忘れずにこれからも、地道な努力を続けていく所存だ。 
7 月	
2 日	湘南学園高等学校 フィールドワーク 湘南学園高等学校 2 年生の学生が、フィールドワークの一環として「MDGs その目を世界へ〜今、日本にいる私達が出来ること〜」をテーマに、リザルツの東京事務所を訪れてくれた。「世界の飢餓問題」を中心にした 1 時間の講義の後、皆さんから活発な質問が飛び交った。その後は、リザルツメンバー全員とのフリートークで盛り上がり、和気あいあいとした雰囲気の中、1 時間 30 分の予定を大幅にオーバーして無事終了した。若者の将来は無量大。力強く世界にはばたいてほしい！ 

11 日	つなみ募金 東京は梅雨明け以来、連日茹だるような暑さが続いている。水道橋駅前を通る人々の多くも、額に汗をにじませて照りつける太陽に顔をしかめながら足早に去っていく。震災から2年と4ヵ月・・・今月も日本リザルツ東京事務所のメンバーと、ボランティアの皆様もお手伝いくださり、そんな水道橋の駅前で恒例の『つなみ募金』を行った。 
15 日	釜石事務所に助っ人 東京事務所の安原職員とボランティアの清田花さん(16歳)が釜石に到着した。花さんは、国際連合パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)の清田明宏保健局長のお嬢様で普段はヨルダンに在住。早速、釜石事務所で、石鹼作り講座の準備を手伝ってくれた。 
16 日	記者クラブ投込み体験 「記者クラブへの投込み」を体験。親子ネットの活動の中で、勉強会・講演会等のイベントを開催する際、運営委員の誰かが「記者クラブ投込み OK です」などというやり取りが飛び交っていたので、そういうシステムがあることは承知していたが、いざ、自分が行うとなると、やや緊張して、厚労省記者クラブの受付で、「日本リザルツの鈴木です。記者クラブへの殴り込みに…」なんて言いそうになって、あっ、違う違うと言葉を飲みこみ、「9時に記者クラブへの投込みのお約束がありまして…」とお伝えして通していただいた。というわけで、無事に厚労省、外務省記者クラブへ投込みは完了。 ACEの「しあわせのチョコレート」取組み 御徒町にある特定非営利活動法人ACEの事務所を訪問し、「しあわせのチョコレート」の取組みについて、山下みほさんから大変ご丁寧なご説明をいただいた。 チョコレートの原料であるカカオの生産地では、児童労働という問題があり、チョコレートのおいしさを知ることなく日夜カカオを収穫している子どもたちがいることを知った。 

	TICAD V 外務省 NGO 対話の最終回 TICAD V 外務省 NGO 対話の最終回があった。これまで 5 回行ってきた外務省との最後の対話において 2019 年 TICAD VI に向けた NGO からの要望事項を伝えた。特に市民社会の参画について外務省、NGO 双方の意見交換があり、白須代表からも今後に向けた強いメッセージを外務省に伝えた。
16 日～18 日	釜石事務所に助っ人その 2 7 月 16 日の午前は甲子第 9 仮設(通称：大松)の集会所で、廃油利用の『石鹼作り講座』を行った。講師の上村年恵さんの、「石油由来の合成洗剤の怖さ」のためになるお話しとともに、畠山美代子保健師も参加してくださり、「玉ねぎの薄皮茶」の健康効果について講義してくれた。参加した住民からは、「良い勉強になった～」「参加して良かった～」という声が聞かれた。 同日の午後、釜石事務所がある平田(へいた)第 6 仮設団地内の『みんなの家』を訪問した。安原より国際連合パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)を紹介し、清田 花さんは自治会長と楽しく語り合った。 7 月 17 日午前、釜石市の野田仮設住宅談話室にて『石鹼作り講座』を行った。釜石復興新聞(水・土曜日発行)が取材に来訪。花さんも自己紹介。「エジプトで生まれ、今はヨルダン在住です。家では日本語、学校では英語、街ではアラビア語を話します」と。午後は、小佐野仮設で『はまゆり講座』。花さんとともに畠山保健師、安原も参加し実際にはまゆりを作った。今回は岩手日報が取材に。 7 月 18 日午後、甲子第 2 仮設住宅 集会所での『はまゆり講座』。花さんは昨日の体験を活かして、本日は先生のアシスタントをしてくれた。「先生！またすぐ『はまゆり講座』をここで開いてちょうだい。私達やりたいです！！」と、嬉しい要望があった。 清田花さん釜石へ(安原記事より) ヨルダン在住の高校二年生 清田花さんがボランティアとして日本リザルツの釜石事務所のお手伝いに来てくださいました。



	清田花さんは、国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）（1949 年設立された中東のパレスチナ難民に保健、教育、社会保障を中心とした人道的支援を行う国連機関）の保健局長に就任し、約 3,000 人のスタッフを率いて医療サービス改革を進めている、日本人職員の清田明宏（せいだ あきひろ）さんの娘さんです。清田さんはパレスチナ難民の健康と生活向上を目指して活動されています。私も東京事務所から釜石事務所のヘルプとして花さんと一緒に 7 月 14 日の夜、夜行バスで秋葉原駅を出発しました。釜石事務所は、平田の仮設住宅の一室を貸していただいているのですが、すぐそばに野生の鹿がやってきます。花さんは釜石事務所で行っている石鯛作り講座やリボンフラワーはまゆり講座などのお手伝いを積極的にしてくださいました。東日本大震災の犠牲者を追悼し復興への願いを込めて、パレスチナ暫定自治区のガザの子どもたちが 風揚げをしてくれた話を、仮設住宅にお住まいの皆様にお伝えしたところ、パレスチナの子どもたちの気持ちをとても嬉しく感じてくださいました。 花さんがヨルダンからきてくれて、日本とパレスチナの絆がほんの少しでも深まってくれたらいいなと思いました。ほんの少しでも、東北の復興、被災者の皆様の心の復興のお役にたてればと思います。 
21 日～25 日	リザルツ国際会議 2013 に参加 毎年恒例のリザルツ国際会議に出席するべく、白須代表とスタッフはワシントンに到着。 国際会議の初日 午前中のセッションではリザルツ教育基金、アクションのスタッフによる世界銀行の可能性～2030 年までの貧困の終焉に参加。リザルツ教育基金の教育担当マネージャーのトニー・ベイカーさんは、昨秋、東京で開かれた世界銀行 IMF 総会で CSO セッションを私達と共同して一コマ運営したが、教育関係の論客であり、非常に歯切れの良い話し振りで説明を行った。続いてラリーリードさんが登場。リザルツが主体となって組成されているマイクロ・クレジットサミット・キャンペーンを率いている。午後最初のシンポジウムには、「我々が世界に与えるインパクト」と題して豪華なゲストでのシンポジウムが行われた。既に会場は 500 人を超えている様子。司会はリザルツ創設者のサム・デイリー・ハリスさん。大変な人気だ。TICAD V に来てくれたザンビアの結核、HIV/AIDS の活動家キャロル・ニレンダさ

んからはコミュニティ活動がアフリカの政治を変えていった事例の紹介があり、会場から大きな拍手があった。その他、著名なパネリストが続々と話された。午後にもポスト 2015 の問題を採り上げたワークショップがありその後、夕方から開会式が執り行われた。リザルツに長く在籍しているボランティアからリザルツと歩んだ人生の道程の披露があり、リザルツ代表のジョアンカーターさんに繋いで、同氏がオープニング演説を行った。7月13日、国連で演説したマララ・ユスフザイさんに話が及び、彼女の言葉を引用して「武装勢力は私の頭を撃って状況を変えようとした。しかし何も変わることはなかった」と話すくだりで熱くなったのか、ぐっと詰まった様子も。彼女の勇気は、リザルツの一人一人の世界を変える勇気と同じものと力説した。ジョアン・カーターさんの演説にはいつも皆さんが熱狂する。彼女はボランティアの皆さんにとって神様のような存在。長い間のアドボカシー活動で培った彼女の実績、経験、知見がこの信頼感を生み出しているようだ。これから熱いアドボカシーの期間が始まる。

国際会議の2日目

朝一番で世界銀行への訪問に向けたセミナーに参加。その後、大会場での教育関係のシンポジウム。キーノートスピーカーはクル・チャンドラ・ゴータム元国連事務次長補。米リザルツの理事でもあり日本にもよく来日し、黒柳徹子さんなど多くの友人が日本にいて、故橋本龍太郎首相とも親しかった由。午後は複数の会場でセッションがあり、その中でアドボカシーを行う上で重要な各国の議会制度やアドボカシーにおける政治へのアプローチ方法についてのセッションが有り、日本リザルツスタッフもパネリストの一人として参加した。午後最後に大会議場で、リザルツ国際スタッフを中心に「我々が与えるインパクト」と題したセッションがあった。モデレーターはリザルツオーストリア代表のマリー・ナットさん。保健、栄養、教育、マイクロファイナンスの各パートでパネリストが入れ替わり説明する、賑やかなセッションとなった。その間、アクション・ネットワークを運営する事務局との個別会議等もあり、忙しい一日だった。



国際会議3日目

今年の特別ゲストであるムハンマド・ユヌスさんが登壇した。ムハンマド・ユヌスさんは

バングラディッシュのグラミン銀行創始者でマイクロファイナンスを世界的に普及させた大立役者だ。2006年には彼とグラミン銀行はノーベル平和賞を受賞した。近年では彼の社会起業ビジネスは銀行のみならず、携帯電話、エネルギー、食品等数えきれない程の事業に大版図を広げ、グラミン・ファミリーと呼ばれる、世界でも有数の巨大なソーシャル・ビジネスグループを形成している。会場は500名以上の人々の熱気に包まれ、万雷の拍手の中、ユヌスさんの講演が始まった。まだマイクロファイナンスが社会的に認められていなかった頃、そして世界銀行等の国際機関はユヌスさんの事業は貧困ビジネスと批判した頃、米国で彼を地道に支えてくれたのはリザルツのスタッフ、ボランティア達なのだった。リザルツスタッフやボランティアが地元で隣人に、またワシントンでは議員に、彼の言葉を運び、やがて状況は改善していった。

1997年、リザルツによってワシントンで歴史的なマイクロ・クレジット・サミットが開催され、ユヌスさん、そしてマイクロファイナンスは世界に認められるようになり、2006年、ノーベル平和賞。ユヌスさんは言う、「リザルツの貴方達が私をここまでにしてくれた」と。今、マイクロファイナンスを受けて路上から抜け出した家庭の子どもに偉大な母に見習えと訴えているそうだ。ユヌスさんの言葉には人間の可能性に対する深い共感があるように思えた。講演後、リザルツ創設者で彼を支えた大功労者であるサム・デイリー・ハリスさんが質問者の席から発言。ユヌスさん、ジョアンさん、サムさんの再会に周りも一層盛り上がった。

午後はユニセフのアンソニー・レイク事務局長と世界基金のマーク・ダイブル事務局長の講演を聞いた。レイクさんの考えでは子どもを救うためにはEducation(教育)/Agitation(扇動)/Organization(組織化)が必要だそうだ。その言葉を入れたTシャツも作ったらしく、聴衆に見せていた。一方、ダイブルさんは情熱的に今こそ歴史的な局面に我々はいるのだと力説した。アンチ・レトロウイルス等、ここ数年で治療や病状改善が不可能とされていた感染症は今ではゼロへ根絶できる可能性が出てきたと。大変な意気込みで話されているのが印象的だった。



国際会議 4日目

今日はリザルツ会議参加者全員で国会や世界銀行へ行き、アドボカシー活動を行う。国際スタッフは主に世界銀行へ行き、夫々関係する担当国や部

門の理事、局長クラスの人物と会い、提言活動を行うことになっている。

日本リザルツは午前中に保健分野の担当スタッフと会い、午後は世銀グループでマイクロファイナンスを担当する機関 CGAP を訪問した。



保健分野では栄養問題に質問が集中した。世界銀行が今、行動目標にしているスコアカードに発育阻害や妊婦の健康等についてもっと具体的な指標を入れるようにと提言。また6月8日にロンドンで開催された「成長のための栄養サミット」を経て、世界銀行として保健分野に寄与する栄養戦略をどう描くのかと問うといったところを中心に話し合われた。続いてCGAPの会合に出席。2010年インドでマイクロファイナンスを供与された多重債務者の女性が自殺するという痛ましい事件があり、その後、一時期、インドの一部地域でマイクロファイナンスの活動が差し止められるということが起こった。その反省としてどのような対応策を考えているのか。またマイクロファイナンスのフィランセラー（慈善活動）という側面における指標効果の測定をどう作り、どのように運営していくべきかという問題提起をボランティアの方が行った。続いて議員会館に移動。



議員会館内の大会場で、全員が参加する大レセプションに参加。本日、アドボカシー活動を行った議員を含め各州の10名以上の議員が出席してくれた。続々と登壇して、リザルツの活動を称賛。彼等にとっても正面からぶつかってくる市民は有り難いようだ。そして再びユヌスさん。会場はリラックスした雰囲気包まれ閉会した。



国際会議 5 日目

今日はアクション・ネットワークメンバーによる会議が行われた。アクションのメンバーはリザルツを主体に米国、日本、イギリス、カナダ、オーストラリア、フランス、インド、ザンビア、ケニアで構成されている。朝早くの各国代表だけの会議。今後の戦略について夫々の意見が出た。さすが代表同士ということもあり、スタッフには重々しい雰囲気だった。その後、メンバーを加えた全体会議が実施された。世界基金の増資会合を今秋に控え、各国での拠出動向や今後の対応策について種々意

	見が出た。またワクチンや栄養の戦略についても話し合われた。最後は 10 月に開かれるアクションのメンバー会合について。今年はケニアのナイロビで行う予定だ。ナイロビで何をしようかという点で活発な意見が出た。会議が終了した後、急遽、アポイントが取れた谷口和繁元世界銀行東京事務所代表を訪問した。谷口さんは世界銀行を退職して米国開発銀行で一週間前から働き始めたとのこと。ワシントンでの再会を喜び、日本で協働した数々の話に花が咲いた。白須代表は翌日の各国代表会議への参加のために残り、米国人スタッフを連れて翌日午後に世界銀行の鈴木英明理事と面談した。 
24 日	動く→動かす 2013 年度年間総会 貧困問題に取り組む国際協力 NGO のネットワーク組織「動く→動かす」の 2013 年度年間総会に出席した。日本リザルツもその 70 以上ある加盟団体の一つであると同時に、運営委員として活動の中枢にも関わってきている。今回は年間総会ということで、2012 年度の活動・会計報告や、年度ごとの「動く→動かす」の代表、運営委員、幹事の選出も行われた。日本リザルツからは、2012 年度に続き今年度も鰐部が運営委員に立候補した。本人は米国出張のため不在なるも無事、2013 年度も鰐部が運営委員を務めさせていただけることとなった。 
26 日	LAMP 法トレーニング LAMP 法の研修に新人 3 人で行ってきた。LAMP 法を用いた結核菌検査は、これまで遺伝子検査が行えなかった途上国施設においても十分使用可能であることが確認されており、今後、世界の結核菌検査を変えていくと考えられている。LAMP 法は、複雑な操作や高価な装置などが不要で、より短時間で高感度、正確な結核菌検査が実現可能になる素晴らしい結核菌検査。実際に、私たちも検査の体験ができ、とてもいい勉強になった。 
30 日	国際連帯税フォーラム主催による国際課税研究会に参加 今回は、去る 6 月の英国の G8 ロックアーンサミット、そして先月の G20 ロシア財務相会議での動向の報告を聞きつつ意見交換等を行った。G8 では多国籍企業による租税回避の問題等への対応や、税務情報の自動的情報交

	換の強化に関する OECD の取組を政治的に後押しすべきとの議論が各国首脳から強いメッセージとして出ているとのこと。 国際連帯税フォーラムのメンバーからは適正な税収を先進国や途上国で得る機会に弾みが付くならば、ぜひ後押ししていくべきだとの意見が出た。日本リザルツもタックス・ヘイブン問題にも一層深く噛みこんでいきたい。
8 月	
1 日	事務所移転のご挨拶 拝啓 猛暑の候 皆様ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。 さて、この度、日本リザルツは8月1日より下記へ移転し業務を行うことになりました。 なにとぞご高承のうえ、一層のお引立てを賜りますようお願い申し上げます。  敬具 住所 : 〒100-0013 東京都千代田区霞ヶ関 3-6-14 三久ビル 503 号 電話 : 03-6268-8744 F A X : 03-3597-3448 8 月 1 日からの引っ越しの様子 水道橋の事務所では最後の仕事、その後、全ての荷物が運び出され、 水道橋のこの事務所にこれまでの感謝の気持ちを込めて、最後の大掃除を行った。何もなくなつてさみしいな〜と思ったのもつかの間、あっという間に新たなリザルツ事務所が完成。週明けには、いつもお世話になっているブルストラベルの三浦社長が素敵なお花を贈ってくれた。新しい机が来るまでの間、私はまるで社長のような席で毎日きれいなお花を眺めながらお仕事。 
5 日	IAVI 渡辺さん来訪 IAVI の渡辺啓子日本・アジアプログラム・コーディネーターがリザルツ新事務所に来所。IAVI (International AIDS Vaccine Initiative/国際エイズワクチン推進構想) は、エイズを引き起こす HIV の感染を予防するためのワクチン開発を推進するために、1996 年に設立された国際 NGO。本部は米ニューヨークで、世界 25 カ国にパートナーを持ち、エイズワクチン候

	補の研究開発を支援している。この日は日本におけるエイズワクチン開発推進の可能性などについて協議した。 TICAD V 新グループに向けた協議 ICAD V NGO コンタクトグループの有志メンバーが集まり、新グループ発足に向けた協議を行った。TICAD Vを踏まえて、今後、日本とアフリカの関係を盛り上げていくには NGO からの働き掛けは欠かせない、しかし一方で何をいつまでに行うべきなのかという点で多くの意見が出た。
7 日	ストップ結核パートナーシップ議連と国際連帯税議連の総会に参加 本日、早朝よりストップ結核パートナーシップ推進議員連盟と国際連帯税創設を求める議員連盟が開催され、日本リザルツは両方に参加した。 まずストップ結核パートナーシップ推進議員連盟。総会が始まる直前に外務省相星孝一国際協力局参事官にストップ結核パートナーシップ日本の代表理事 3 名から世界基金に対する日本の抛出目標等を記した要望書を手交した。議連総会は武見敬三会長のご挨拶で始まり、役員関係では副会長に郡和子衆議院議員が新たに選任された。 その後、厚生労働省、外務省から平成 26 年度結核予算について説明があった。そして厚生労働省への申し入れ内容について確認し閉会となり、白須代表を始め関係者はそのまま田村憲久厚生労働大臣へ申し入れを届けるべく急ぎ厚労省へ向かった。   同時間帯、国際連帯税創設を求める議員連盟の総会も開催され、白須代表が出席した。今回、役員体制が大幅に変わり、自由民主党を始め各党から多くの先生方が新たに参加されることになった。新会長は衛藤征士郎衆議院議員。その後、国際連帯税の今後の進め方について意見交換が行われた。 UNRWAの清田保健局長が新オフィスへ来所 国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）の清田明宏保健局長が、霞ヶ関に引っ越ししたリザルツの新オフィスを来訪した。国連パレスチナ難民救済事業機関とは、中東のパレスチナ難民に保健、教育、社会保障を中心とした人道的支援を行う国連機関。 清田先生はその保健局長に就任し、約 3,000 人のスタッフを率いて医療サービス改革を進めている。『ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟

	総会』にもご出席下さり、UNRWAにおけるユニバーサルヘルスカバレッジ推進（WHO 定義：全ての人が、適切な保健医療サービスを、必要な時に支払可能な費用で受けられること）においても結核対策が大きく貢献してきたと発言して下さった。 ストップ結核パートナーシップ議員連盟の申し入れ 7 月下旬に武見敬三会長の事務所を訪問し、平成 26 年度結核関連予算の要望書について話し合った。ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会后に、田村憲久厚生労働大臣に「平成 26 年度結核対策関係予算」「平成 26 年度 WHO 任意拠出金」についての申し入れを行った 厚生労働省佐藤敏信健康局長にも厚生労働大臣と同様の要望を行った。今後も結核のない世界を目指して結核対策を推進し、結核制圧の重要性を啓発する活動に携わっていきたい。 
8 日	GAVI インドネシア視察に向けて 来週、インドネシアのワクチン・予防接種の状況などを国会議員の先生方に見ていただくための GAVI アライアンスの視察プログラムが予定されている。日本からは 4 名の国会議員の先生方が参加される予定。それに先立ち、参加される先生方に GAVI についてのブリーフィングを行った。午前中に谷合正明参議院議員、午後は藤井基之参議院議員、上川陽子衆議院議員、藤末健三参議院議員事務所を訪問した。 GAVI はインドネシアにおいては 2002 年より、予防接種のサポートなどを行っている。インドネシア視察には日本リザルツより、白須代表と鈴木が同行する予定。 
10 日～11 日	白須代表 釜石訪問① 8 月 10 日朝、釜石駅着の列車で白須代表と幸道秀樹先生が釜石入り。釜石事務所で山崎長也釜石商工会議所会頭、山崎長栄釜石市議、佐々木新治平田第 6 仮設自治会副会長が来所。釜石の現状や課題、そして要望が出された。白須代表は、要望を受け止め当団体が動く意向を示した。 午後は、小泉嘉昭釜石医師会会長と対談。当 

	団体の理事には、本日同行の幸道先生を始め医師が多い事もあって医療系の事業を考えている事等を説明し、情報は釜石医師会と共有する旨を伝えて今後良い協力関係を築いていくこととなった。その後、鵜住居地区防災センター犠牲者追悼式に参加。防災センターは今秋解体が始まるので、最後の追悼式となった。 白須代表 釜石訪問② 8月11日は幸道先生によるドクター仮設巡回訪問を行った。 この日は平田第3仮設住宅。仮設住宅は土地の関係で点在して立地しており、隣の棟には車で行きたくなるほど離れている。岩手では震災前から高齢化・過疎化の問題があり、「限界集落」的なところが多い。白須代表は「何かお役に立つ事があれば・・・」と、まず視察を行った。帰りには遠野市の多田克彦理事を訪ね、東京事務所の移転等の報告を行った。 
12日	TICAD V ファシリテーショングループメンバー会合 TICAD V NGO コンタクトグループ内のファシリテーショングループメンバーが集まり次の会合の打ち合わせ等を行った。これまでの議論を活かしてTICAD VIに繋げるための準備会議だった。
19日	GAVI 理事長の日本での一日 GAVI アライアンスのダグフィン・ホイブローテン理事長が来日された。日本リザルツのアレンジのもと、とても中身の濃いスケジュールとなった。  午前 ・国際開発ジャーナルの溝端記者のインタビュー ・財務省主計局訪問 午後 ・ワクチン予防議員連盟昼食会 ・公明党山口那津男代表との会談（含む公明新聞の上野記者の取材） ・鈴木俊一外務副大臣との会談 ・共同通信の伊藤記者のインタビュー ・上川陽子衆議院議員への訪問

	朝から夕方まで、各省庁、議員会館とホテルの間を何度も往復されたが、ホイブローテン理事長は疲れた様子もなく、一回一回の会談をとっても大切にされていた。以下は各イベントのハイライト。 財務省主計局訪問 ホイブローテン理事長から、GAVI のこれまでの活動の成果や意義、そして日本からの拠出拡大をお願いする旨を話した。GAVI からはその他、アクセル・ヤコブセン理事長付特別顧問、北島千佳上級資金調達官が出席した。財務省からは有泉秀主計官、徳岡喜一主査が対応された。有泉主計官は、GAVI の活動やワクチンが途上国の保健対策に大いに役立っていることを認識しており、拠出の可能性について、外務省や議員とも連携して検討していきたいと述べられた。 ワクチン予防議員連盟昼食会 ブローテン理事長の来日に合わせて開催された。まずはワクチン議連会長の鴨下一郎衆議院議員より、開会のご挨拶。続いて、ホイブローテン理事長による基調講演。その後、ご出席の議員の先生方お一人お一人から、ご意見やご質問を頂戴した。最後に議連会長代理の古屋範子衆議院議員から、閉会のご挨拶。さまざまなご意見が挙がり、先生方のワクチンや GAVI に対する強い関心が伺え、とても貴重な時間となった。 GAVI 理事長 公明党代表らとの面会 ホイブローテン理事長は公明党代表の山口那津男参議院議員、古屋範子衆議院議員、谷合正明参議院議員と面会した。公明党は日頃より保健問題についてさまざまな対策に取り組んでおり、山口代表もワクチンや GAVI の重要性に対する強いご理解を示してくださった。ワクチン支援が今後の国際貢献に必要なことであると述べられた。この面会の様子は、翌日の公明新聞で一面に取り上げられた。
20 日～23 日	インドネシアにおける GAVI アライアンスの活動視察



8月20日～8月22日までインドネシアにおける GAVI アライアンスの活動視察に同行した。今回の視察は GAVI アライアンスとインドネシア政府の協力で実施され、日本と韓国の国会議員の方々に GAVI の活動を見ていただくことを目的としている。また、国会議員の方々に GAVI の支援によりインドネシアに導入される五種混合ワクチンの導入式典にご出席いただき、インドネシア感染症対策と予防接種の取り組みがどのように成果を収めているか、実際にご覧いただいた。



8月21日

バイオフィーマ社主催の昼食会にヘレン・エバンス GAVI 事務局次長、北島上級資金調達官と、日本議員団を代表して上川陽子衆議院議員、谷合正明参議院議員、藤井基之参議院議員、藤末健三参議院議員と、韓国から参加された Hong Joon、Jasmine Lee、Man-Woo Lee 議員、ビル&メリンダゲイツ財団、WHO と UNICEF 職員が参加。夜には、インドネシア国会議員と視察団のレセプションが行われ、参加された方々が皆、GAVI に対する力強い支援の意思を表明した。



8月22日

五種混合ワクチン導入記念式典に参加。ケラワン市長宅にて歓迎セレモニーが実施された。ケチャダンスによる歓迎や日本議員団、オーストラリア開発庁、エバンス GAVI 事務局次長からご挨拶があった。西ジャワ州知事のスピーチの後、インドネシア保健大臣より西ジャワ州知事へ五種混合ワクチンの贈呈とご挨拶をもって閉会となった。記念式典閉会后、予防接種会場へ。



インドネシアは 2002 年に GAVI 支援対象となり、予防接種サービスや保健システム強化の支援を受けてきた。またワクチンのスムーズで迅速な接種を行うための設備支援として、コールドチェーンシステム（ワクチン保管のための冷蔵設備等）の整備、保健スタッフの訓練、予防接種カードの作成・



	印刷等にも GAVI の支援が使われている。 インドネシアは近い将来、GAVI の支援を卒業する予定ではあるが、卒業後も持続的に予防接種プログラムを実施していけるよう、GAVI はインドネシア政府との協力を強化している。今回の視察を通して、実際に予防接種がどのように行われ、成果を上げ、いかに子どもたちの将来を握っているかを肌で感じることができた。
22 日	GAVI アライアンス北島さんが来所 GAVI アライアンスの北島千佳上級資金調達官が日本リザルツ事務所を来訪。GAVI がインドネシアで日本、韓国の国会議員を招待して行ったイベントを終えるとすぐに来日し、その後韓国へ向かう慌ただしい中で立ち寄っていただいた。折角の機会なので通常、GAVI の仕事に携わっていないスタッフも加わり、基本的なことから今後の戦略など広範に北島さんから教えていただいた。特に注目したのは GAVI のポスト MDGs 問題に対する取組み。ポスト MDGs のハイパネル会合報告が去る 5 月末に発表されたが、保健分ワクチンの重要性は確りと記述されている。しかし GAVI では更に踏み込んでワクチンの接種目標などが具体的に入るように運動を展開しているとのこと。
23 日	ストップ結核パートナーシップインドネシア インドネシアのストップ結核パートナーシッププログラムを担当している PPTI（インドネシア結核予防会）のマリアーニ（Mariani Reksoprodjo）医師に面会した。ストップ結核パートナーシップインドネシアはストップ結核パートナーシップ日本のように独立した組織ではなく、国立結核プログラムの中に存在している。インドネシアの結核対策プログラムは、政府や市民社会組織、医師、薬剤師、研究者などから構成されている。プログラムは次第に良くなっている状況だが、多剤耐性結核（MDR 結核）は治療自体も難しく、費用も高く問題になっているという。来年は、第 2 回ストップ結核パートナーシップの総会がインドネシアで開かれる予定になっている。
27 日	TICAD V NGO コンタクトグループ解散 TICAD V NGO コンタクトグループが解散し、TICAD VI に向けた新グループ準備会が立ち上がった。これからの 5 年間に向けて、日本リザルツはアフリカの問題に確り受け止めて、更なる市民社会への参画拡大も含めた活動を行うべく、新グループに主体的に参加していく。 
29 日	GAVI インドネシア視察フォローアップ

	先週 GAVI のインドネシア視察へ行かれた藤末健三参議院議員を訪問し、視察の写真や出張に同行した日本リザルツスタッフが作成した報告書をお届けした。藤末議員は書類にじっくり目を通してくださり、またインドネシア滞在中の韓国の国会議員の方々との交流についてなど、色々なお話を聞かせてくださった。世界の子どもたちをワクチンで防げる病気から救うため、今後もワクチンや GAVI を支援して下さるという大変心強い発言をいただいた。
31 日	ハイチ官民連携事業 終了 昨年より、栄研化学株式会社と日本政府により進められてきた LAMP 法普及に向けた官民連携事業。今年の 4 月から 6 月の 3 ヶ月間に渡り、ハイチにてスタディを行った。 ハイチの結核対策においては、患者発見率の低さが問題視されてきた。そこで、日本リザルツは、2011 年 11 月から 2012 年 6 月まで、栄研化学株式会社が開発した LAMP 法（簡易遺伝子増幅検査法）を導入し、結核患者発見拡大事業を行った。その成果を受けて、栄研化学株式会社と外務省の官民連携事業として、このプロジェクトが実施された。 今回は、その結果の最終確認と報告のため、日本リザルツスタッフがハイチを訪れた。現地検査技師と共に結核の顕微鏡検査及び LAMP 法検査を行ったグレース小児病院の最高責任者で、元ハイチ国保健大臣でもあるビジュ先生に、検査結果の最終報告を行った。培養検査を行った、国立公衆衛生ラボ。ハイチ国保健人口省検査部長のボンシー先生に結果を報告し、今後の更なる協力を約束した。また、HIV/エイズ・結核の民間研究機関である GHESKIO にて、LAMP 法のデモンストレーションを行った。多くの方が集まり熱心に説明を聞いていた。LAMP 法は、あまり施設の整っていないラボでも実施可能であり大変有用であると、今後の利用拡大に期待してくれた。最後に、保健人口省のレイモンド事務次官に、ハイチ政府の協力へのお礼と結果の報告を行った。日本からのお土産を、大変喜んでくれた。 
9 月	
1 日	ハイチ・ミッション 今回のミッションで再び、結核患者発見拡大事業のサイトの 1 つであったシグノー結核療養所を訪問した。シグノー結核療養所は、首都ポルトープランスから西に 30 ㎞ほど離れたレオガン市にあり、そこでは戦後の日本で結核の医師とご尽力された須藤昭子シスター（クリスト・ロア修道会所

	属。医師）が 30 年以上に亘り結核対策に取り組んでいる。レオガン市は 2010 年 1 月の大地震の震源地に近く、甚大な被害を受けた。全国から 60 名にものぼる患者が入院していたシグノー結核療養所の結核病棟が全壊し、建物内にいた数名が亡くなった。また奇跡的に助かった方々も、療養所の敷地内で大地震後 1 年以上、テントの下での療養を余儀なくされた。シグノー結核療養所は震災後、スイス赤十字の支援により仮設病棟を建設し、いち早く入院患者受け入れを再開した。そして、草の根・人間の安全保障無償資金協力により、新病棟が建設された。しかしながら現在シグノー結核療養所では、入院患者に与える食糧の確保に窮乏している。敷地内にある畑の給水ポンプは数か月前に壊れたままで、また敷地内で飼育している豚や鶏などのエサも十分に入手できず、最近生まれた子豚は数頭死んでしまったといことで、まだ生き残っている子豚も動けずにうずくまったままだった。鶏も数が激減してしまい、空のケージが並んでいた。今週はなんとか、市場で購入した野菜等を使って食事を出せるが、来週以降まったくあてがない、とシスターエヴェリンは深刻な表情で説明してくれた
3 日	ケニアプロジェクトのために奮闘中 現在準備中のケニアの結核プロジェクト。昨年 12 月にケニアに行った際にナイロビ郊外のカングミ地区というスラム街に暮らす結核患者や元患者さんなどに会い、地区での結核事情を目と耳で学んできた。カングミ地区の結核状況を改善するためには、住民の結核に対する知識を向上させること、たった一人しかいない看護師をサポートする体制を整えることが重要だと。帰国後からずっと何かできないかと考えていて、今、プロジェクトの準備をするところまで来た。定期的にミーティングを行い、プロジェクト作りの極意を学んでいる。色々と学びながら、プロジェクトの実施に向けて、カングミ地区の結核状況の改善に向けて、がんばっている。これからも進捗を少しずつご報告していきたい。
4 日	亀田選手、3 兄弟の同時世界王者 亀田 3 兄弟の亀田大毅選手がサンメッセ香川で国際ボクシング連盟 (IBF) スーパーフライ級王座決定選に見事勝利し、世界初の 3 兄弟での同時世界王者が誕生した。ギネスブックにも登録された由、日本リザルツメンバーからもこの快挙に心おりお祝い申し上げたい。これからも強い絆で助け合って、世界中のリングで 3 兄弟の素晴らしい戦いを見せていたただきたい。また被さい地の子ども達は亀田選手にまた会えることをきっと楽しみにしているはず。ぜひまたそのような機会が実現できるよう日本リザルツも尽力していきたい。

	オフィスへ観葉植物 本日、来所されたミレニアムプロミスジャパンの鈴木りえこ理事長から新オフィスのためにと下記のような素晴らしい観葉植物をいただいた。とても大きくて素晴らしいもの。鈴木理事長、有難うございました。 
7 日	フィリピンで台風による洪水被害への緊急支援を開始 台風 11 号 (Lapuyo) と台風 12 号 (Maring) により、ルソン島マニラ市南部で多大な被害が発生しているとの知らせを現地から受けて、昨年のモンテンルパ市への緊急支援に続き、今年もジャパンプラットフォーム (JPF) の助成をいただき、フィリピンに支援活動を開始することが決定。 今回は現地でバスーラの家支援活動を行っている Lotus Children の木下優代表を始め、現地スタッフや、志願して緊急支援スタッフとなったりザルツボランティア森健介さんが参加。 マニラ市南部は広範囲に被害が発生したようだが、特にラグナ州での被害が深刻だ。被さい地ではまだ水が引いていない地域がある。9 月 7 日には JPF の方も視察に来られた。バエ湖周辺の他地域でも同じような状況が続いている。避難所には電気がなく、飲料水も不足しがちとのこと。 台風が通った 8 月 19 日から厳しい環境の中で生活している。 物資配給に向けて準備を進めて一刻も早く配布を開始したい。 
7 日	「りこちゃんキャンペーン」全国一斉イベント 岩手県釜石市 釜石でのイベントには白須代表も駆けつけた。その他、木下さん、小川孝幸さん、釜石事務所の宮川がまず参加。その後、初代ドライバーの佐久間さんも参加してくれた。そして「釜石よいさ」の最中にお会いした野田武則市長、嶋田賢和副市長にもキャンペーンを説明する機会があった。 

「りこちゃんキャンペーン」全国一斉イベントを開催！

北は札幌から、南は那覇まで、全国 16 箇所での開催となった。各地、当事者・支援者が団体の枠を超えて力を合わせ、事前準備を行い、当日は雨に降られた街もあるが、街角に立ち、勇気を出してリーフレットに思いを込めて 1



枚 1 枚配った。各地で、風船を添えたり、着ぐるみを着たり、趣向を凝らして人を集めた。

釜石以外の各地の状況は以下の通り。

札幌：参加者 9 名。15 時過ぎから雨が降り始め、15 時半に切り上げた。

仙台：参加者 6 名。250 部ほど配布。音楽フェスティバルがあり、人通りは多かったよう。

松戸（千葉・茨城・栃木連合）：参加者 11 名。飴ちゃんと一緒に配布し、好評のうちにリーフレット 1,000 枚配布。

東京（浜松町）：参加者は 30 数名。ミドレンジャーが、離婚後生き別れになる親子を助けに来てくれた。小学生の男の子もがんばってくれた。キミドリタスキは一針一針思いのこもった手縫い。女性陣はキミドリタスキを掛けて頑張った。



横浜：キミドリリボンと外国人の方々が中心になり、風船とともにリーフレット数種類を配布。参加者は 20 数名。

浜松：参加者は 7 名。500 部ほど配布。小学生の男の子もがんばってくれた。

名古屋：参加者は 6 名。かわいいリラックマもリーフレットと風船を配った。

神戸：雨が降ったり止んだりの中がんばった。悟空とマリオが応援にきてくれた。

松山：支援者のみ 5 名で実施。こうした支援者を増やしていきたい。

大分：参加者は 5 名。少人数ながらアットホームな雰囲気で行った。

宮崎：参加者は 5 名。ショッピングセンター

内で実施。バルーンアーティストがボランティアで参加し、バルーンがで



	きあがるまでの間を利用してじっくり説明ができた。 那覇：参加者は6名。親子ネット沖縄の会員の娘さんや、再婚した方の奥様、職場の同僚の方の強力なヘルプがあり、このメンバーで1,000部配った。
9日	UHC 勉強会 ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の勉強会に参加した。この勉強会は、UHC に関して NGO 間で理解を深め、日本の政策をどのように捉えて提言を行っていけば良いのかを考えて意見交換を行うための場として設けられ、3回のシリーズとして計画されている。第一回目の今日は、WHO の UHC 担当のコンサルタントがスカイプ接続により、UHC の概念・概要に関するプレゼンを行い、その後質疑応答が行われた。 WHO の説明では、UHC は人権やアルマアタ宣言及び過去の WHO の関連報告書がもとになっていること、UHC は貧困に陥ることなく保健医療サービスにアクセスできることを意味すること、その実現には強力な政治的選択が最重要であること、その財源として税収・社会保障システムが重要であり、UHC は保健医療費の直接の支払いを低減させることをめざしていること、UHC には保健システムの再強化が必要であることなどの説明があった。
11日	つなみ募金-2年半経ってー 東日本大震災の発生からちょうど2年半が経過した。 日本リザルツでは震災発生以来、毎月11日頃に水道橋駅前でつなみ募金を行ってきたが、8月に事務所が水道橋から霞が関に移転したため、この2年半の区切りを以て、水道橋駅前でつなみ募金は最後とすることとなった。今回もエマウス・メディカル・ジャパンと親子ネットの方々が来てくれた。特にミドレンジャーは、先日のりこちゃんキャンペーンー斉配布イベントの時に続き、ここ水道橋でもとても目立っていて、人気を集めていた。 
12日	パレスチナ友好議員連盟 国際連合パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）フィリップ・グランディ事務局長と清田明宏 UNRWA 保健局長兼世界保健機関（WHO）特別代表の来日に合わせて、パレスチナ友好議員連盟が開催された。小池百合子会長を始め、逢沢一郎衆議院議員、武見敬三参議院議員等がご出席され、まず小池百合子会長より開会のご挨拶があった。次にグランディ UNRWA 事務局長より、現状報告と今回は岸田文雄外務大臣を訪問し補正予算への支援を要請した旨の説明があった。清田明宏保健局長は、10日にタイで行われたパ

	レスチナ開発のための東アジア協力促進会合（CEAPAD）に出席されたが、その報告も行われた。参加者はパレスチナに対する深い同情を示し、またパレスチナの方々は、東アジアの発展をいかにパレスチナに取り入れるかに興味を示されたようだ。逢沢一郎衆議院議員「私は UNHCR 国会議員連盟の代表でもあり、平和的に事態を解決するのが理想である」と、武見敬三参議院議員「金銭的援助だけではなく、人的支援を通じた協力が必要」と述べられた。グランディ事務局長は、2011 年の震災にも関わらず、日本の継続的支援に感謝していると述べ、パレスチナ難民の解決に向けて日本政府の継続したさらなる支援を呼び掛けた 
13 日	台風の傷跡、そして支援物資配布への最終準備 9 月 11 日まで支援地域の状況の再確認、支援物資の最終調整に明け暮れる日々を送ってきた。色々検討した結果、支援対象地域はフィリピン・マニラ市南部のサントペドロ市、ビナン市のバエ湖沿岸部に集中することにした。 以下の日程で支援地域を回る。 配布初日 ビナン市 マラバン・バランガイ 2 日目 サントペドロ市 クイヤップ, サンドロケ両バランガイ 3 日目 ビナン市デラパズ・バランガイ、サンアントニオ避難所 4 日目 サントペドロ市ランダイヤン・バランガイ （バランイとはフィリピンにおける最少の地方自治単位で区や村のようなもの） 避難家族は学校やバスケットボールコートに集まっている。毛布で仕切って各家庭が生活している。山間でテント生活をしている人達もいる。台風の影響による地滑りで帰る家が無くなったとのこと。色々なところと交渉して調達した物資が倉庫に続々と入ってきており、スタッフも大幅に増え、搬入作業で一段と忙しくなってきた。いよいよ支援物資配布を開始する。 
14 日	皆様が集まって下さるリザルツの事務所 8 月からここ国会議事堂前に引っ越しして以来、事務所には益々多くの方が訪ねて下さるようになった。その理由の一つには、政治の中心の地に移転したことで、交通の便もよく、 

	皆様が立ち寄り易くなったこと。もう一つには、オフィスが広くなり、皆様に居心地のよい環境が出来たこと。昨日も国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）のグランディ事務局長、清田明宏保健局長、そして長崎大学の山本太郎教授と、錚々たる方々がリザルツの事務所を訪ねてくれた。これからも、たくさんの方が気持ち良く来て下さる事務所になるようスタッフ一同努力致したい。
15 日	フィリピン・マニラ南部方面水害被害への支援 物資配布開始 台風の水害で苦しむ人々への物資配布を開始した。今日はビナン市のマラバン・バラングイへ行き、900 世帯近くの方々へ物資を配布。途中でこのバラングイで指揮を執っている方とビナン市長に面会した。市長からは「ビナン市へ来てくれ、助けてくれて有難う。私達も毎年水害に遭っている方達の住居移転を検討しています。」と。多くの方達へ物資をお渡しすることが出来た。被さい地、中でも避難所は飲料水が不足している。この物資が少しでも役に立つことができるならば幸いだ。 
15 日	第 1 回はまゆりサミット 第 1 回はまゆりサミットが釜石市内のホテルマルエで開催された。開会の挨拶は昨年迄職員だった村上智美さん、大阪より来てくれた。  その後、イボンヌ・チャカチャカさんからのメッセージを新里が代読。 サミットの司会進行は齋藤。和田耕太郎アドバイザーによる「被さい地における栄養と健康」、角泰人アドバイザーによる「被さい地における結核：ハイチの事例」、親子ネット代表兼当団体職員の鈴木による「親子の絆」についてのお話の後、畠山美代子保健師による健康講話、そして玉葱の薄皮茶の試飲を行った。午後の部は「被さい地が抱える課題」として様々な立場からご意見をいただいた。閉会の挨拶ではかまいしリンクの平松伸一郎さんから、2019 年ラグビーワールドカップ釜石招致の運動を当団体と連携して盛り上げる！という心強いお言葉をいただいた。皆様の暖かさに支えられ初回は大成功だった。 

16 日	フィリピン・マニラ南部方面水害被害への支援物資配布完了 初日を含めて4日間かけて物資の配布を完了した。合計で3,000世帯に配った。2日目の午前はサント・ペドロ市クイヤップ・バランガイで配布を実施。この日、日刊まにら新聞の記者も取材に来ていただき、緊急避難所への物資配布等をご覧になっていた。同日午後は同市のサンドロケ・バランガイ。3日目はまたビナン市デラパズ・バランガイに行った。午後は地滑りで大変な目に遭ったサンアントニオ・バランガイの避難者へ向かった。最後の4日目はランダイヤン・バランガイ。ここでの配布世帯は初日と同様に800世帯を超えたのでチケットを持った人達が殺到して結構大変だったが、スタッフやバランガイの関係者が協力して無事に配布できた。物資配布はバランガイや現地スタッフの多大なる協力があって滞りなく実施できた。一家族当たりの配布量を充実させたつもりだ。生活を再建していく上で、少しでも支えになってくれれば幸いである。
16 日	それぞれの釜石 日本リザルツの新しいスタッフの中には、釜石が初めての人もいたため、9月14日～16日まで、釜石、大槌町、山田町、陸前高田などを見て回った。「はまゆりサミット」後から16日、台風による雨と風の中、ずっと運転して私たちを乗せて回ってくださった小川孝幸さん。途中、いろいろな壮絶な体験や裏話など、貴重なお話を伺うことができた。 今回釜石と周辺の町へ行き、今なお痛ましい爪あとを残す場所を見て回ったことで感じたのは、国や行政、公的機関の力だけでは、物事がなかなか進まなかったり、細やかなケアができなかったり、限界があり、そういう部分は現地に根付いた活動のできるNPO、NGOの出番で、活動の意義は大きいと改めて感じた。
17 日	スタンド アップ！テイク アクション！ 日本リザルツ事務所にて、「動く→動かす」の会合が開かれた。会合の最後に、STAND UP TAKE ACTIONのための写真を撮影。STAND UP TAKE ACTIONは、MDGsの達成と、世界の貧困をなく



	すために「立ち上がる」世界同時イベントで、「動く→動かす」の活動の一環として毎年この時期に開催している。会合に参加した各 NGO の皆様と、リザルツのスタッフとで、パチリ！
28 日	フィリピンマニラ南部方面水害被害への支援-その後の活動 支援配布後、現地でモニタリング活動を行った。大量の物資配布を実施したが、被害全世帯をカバーできていない。状況をよく確認しつつ追加に必要な世帯に物資配布を更に届けることにした。この間、日刊まにら新聞が日本リザルツの活動を現地で採り上げてくれ、記事が載った。 更に帰国後、団体内で発表会を行い、浅野茂隆理事長を始めとする関係者や専門家の間で今後の方向性について話し合った。今回の支援を通じてフィリピンでの台風被害は慢性化している印象を受けた。いつまでも続く水溜りの中に生活し、衛生面で悪化している環境にいるので体調が悪化している等々、様々な問題が新たに起こっている可能性がある。報告会を受け、また調査を継続。モニタリングは続いている。 
30 日	9 月 1 日にご報告した「ハイチ・ミッション」の関連記事 大地震で甚大な被害を受けたシグノー結核療養所は震災後、スイス赤十字の支援により仮設病棟を建設し、いち早く入院患者の受け入れを再開した。そして、草の根・人間の安全保障無償資金協力による新病棟の建設により、より多くの患者受け入れが可能となる。しかし現在、シグノー結核療養所では、入院・外来患者のための食糧の確保に窮乏している。 これまでシグノー結核療養所は、国からの人的資金的支援がほとんど得られない中、入院患者（120 人）の日々の食事の確保に頭を悩ませながら、須藤昭子シスターをはじめとするシスターたちがぎりぎりのところで療養所運営を行い、敷地内での養鶏・養豚や農業によって、患者の食糧の自給自足を目指してきた。しかし今回の視察で、自力でやりくりしてきた資金が底をつき、シスターたちはまさに「途方に暮れている」状況であることが判明した。畑の給水ポンプは 4 か月前から壊れたままで野菜は購入しており、また家畜飼育用のエサも十分買えず家畜の数も激減している。このような中、入院患者の食糧確保のための支援が早急に望まれている。 

10 月	
1 日	TICAD VIに向けた NGO ネットワーク準備会第一回会合 TICAD VIに向けた NGO 有志による準備会の第一回会合がハンガーフリーワールドオフィスにて開催された。日本リザルツは、アフリカ日本協議会、アムネスティインターナショナル日本、ハンガーフリーワールドとともにファシリテーション・グループのメンバーとして主体的に参加している。 日本リザルツからは、現在、学生団体とともに TICAD 議員連盟を立ち上げる運動を開始したことを報告した。国会議員の半分の方々にこの議連に参加してもらいたいという壮大な計画だ。5 年後の遙か遠き頂を目指して、歩き出した。 
2 日	ハイチ：ご寄附のお願い（HP より） 9 月 30 日の投稿記事「ハイチ：結核と栄養」の関連です。今日（10 月 2 日）の朝日新聞の夕刊に、「ハイチの結核診療所、苦境：日本人医師引退、支援募る」という記事が掲載されました。 郵便局からのご寄附を以下のようにお願いしております。 ・口座番号：00170-9-581459 ・加入者名：日本リザルツ ※用紙にお名前、ご住所、そしてさしつかえなければご年代を、寄付項目「ハイチ」とともにご記入いただければ幸いです。 是非ご支援をお願いいたします。
3 日	ワクチンの記事 朝刊の 1 紙に「ワクチン予防議員連盟」の方々が、岸田文雄外務大臣に「GAVI に対する拠出金増額とコールドチェーンシステムの整備・改善を求める要望書」を提出された記事が掲載された。これは日本リザルツが取り組んできた活動と合致するもの。まだ通過点のようだが、関係者の皆様に厚く御礼申し上げたい。  ソマリア連邦共和国ブルハン・ハーシー公使の来訪 ブルハン・ハーシーさんが来所し、ソマリア連邦共和国の日本公使に任命されたとの報告をいただいた。喜び暇もなく、ブルハンさんから早速、相談があった。数十年に亘って同国の支援を行ってきた海外の巨大な NGO が

	突然撤退したことで、住民が医療サービスにアクセスできなくなるなど、新たな問題が発生しているとのこと。公使になっても本国から支援は無く、オフィスすらまだ持てない状況だが、それでも日本とソマリアの架け橋になりたいと熱く語るブルハンさんに、引き続き協力を惜しまないことを伝えた。ブルハンさんとこれまで以上に連携して支援プロジェクトの具体化へ向けて進めていく。	
4 日	ある日の事務所 今日、事務所ではあちらこちらで真剣なお打合せが続いていた。ミーティングルームでは、大塚製薬のパトリシアさん、横山さんをお迎えして白須代表とスタッフが打合せを行っていた。大塚製薬が現在取り組んでいる結核の新薬について色々な議論が交わされていた。リザルツの事務所も絶えず色々な方々が来訪されるようになってきた。 GII/IDI での報告 第 111 回 GII/IDI 会合にてリザルツスタッフが最近の視察について報告を行った。まずはスタッフの鈴木より、8 月に行った GAVI アライアンスのインドネシアでの議員視察の様子を発表した。インドネシアにおける 5 種ワクチンの定期接種導入を実現させた GAVI の貢献及び日本の支援により建設されたワクチン製造施設のことなどを報告した。 続いて齋藤より 8 月末に終了したハイチにおける結核診断 LAMP 法の官民連携事業について発表した。外務省の支援のもと、LAMP 法のフィールド試験結果が良好に終わった一方で、ハイチではシグノー結核療養所が深刻な資金不足を抱えているなど、課題が多く残っている。 国際医療貢献・病院船団実現プロジェクト 9 月 23 日、朝日新聞・朝刊の視点に、浅野茂隆理事長（早稲田大学・東京大学名誉教授）の病院船に関する記事が掲載された。その数日後、日本リ	  

	ザルツ事務所に1本の電話がかかってきた。「病院船」を取り入れることの必要性を感じ、様々な活動をされている方で浅野先生の記事を読み、病院船を実現したいとの思いからご連絡したとのこと。本日、リザルツ事務所で初対面し、「国際医療貢献・病院船団」実現に向けての今後の活動についてなど、話し合われた。今後も日本リザルツとして「国際医療貢献・病院船団」実現に向けて全力で応援していきたい。
5 日	白須代表 釜石訪問 白須代表が釜石を訪問。午前中は、「第9回ラグビーワールドカップ2019 岩手県『釜石ラグビー場』での開催を応援します！」の関係で、スタジアム予定地近くに数日前にオープンした『ラグビー カフェ』を訪問。午後からは、釜石市球技場で、「社会人ラグビー トップイーストリীগ 釜石シーウェーブス VS 日野自動車」を観る。 日本ラグビー協会会長 森喜朗元首相も観戦。同席した玉沢徳一郎元農水相は森元首相の旧友であり同じくラグーマンであり岩手県人。野田武則釜石市長も一緒。試合終了後は、森元首相が「ラグビー・わが人生」と題しての講演会。会場をどっと笑わせる場面もあり、もっと聞いていたいと思わせる楽しい講演だった。そして、スタジアム予定地(鵜住居)を視察した。リザルツのスローガン「釜石で逢いましょう！」 心から そう思った一日だった。 
6 日	グローバルフェスタ 2013 日比谷公園にてグローバルフェスタ JAPAN2013 が開催された。グローバルフェスタは、外務省が定めた「国際協力の日」である10月6日頃に外務省・JICA・JANICの共催で開催される毎年恒例のイベントで、国際貢献に関わるNGOや企業など250団体ほどが参加する。今年、日本リザルツは個別のブースは出店せず、動く動かすなど他の団体のお手伝い等をしながら参加した。またメインステージで行われた「金子貴俊と一緒に学ぼう！『国際協力ってなんだ？』」に参加し、俳優の金子貴俊さんと外務省国際協力局政策課の荒木要企画官のお話を聞いた。イベントの最後には、会場の全員で恒例のスタンドアップ。 
7 日	小此木八郎衆議院議員と面会 自民党副幹事長の小此木八郎衆議院議員を訪問した。面会場所は自民党本部。来週に予定されている結核やHIVの患者さん方の来日のご報告とご協

	力をお願いを行った。小此木議員は世界基金をはじめとする保健対策の重要性を非常に理解されており、協力の意思を示してくださった。学生のインターンにも、激励のお言葉をいただいた。 第一回マイクロファイナンス事業会議の開催 日本リザルツ事務所でマイクロファイナンスの新規事業立ち上げに向けたキックオフミーティングを行った。日本リザルツは発足当時からマイクロファイナンスの普及活動に力を入れてきており、ムハンマド・ユヌス博士の2006年ノーベル平和賞受賞にも大きな役割を担った。しかしマイクロファイナンスが世界的に浸透した近年、本格的な活動を控えてきた。 今般、新たな活動を開始しようと考えている。今回の会議には、一橋大学経済研究所の黒崎卓教授や国立市で生活困窮者の救済事業に取り組んでいる上村和子市議会議員にお越しいただいた。外資系投資銀行出身の財務コンサルタント山下昌彦さんにも参加いただいた。まだ固まっているわけではないが、出席者の関係の深い国立市でマイクロファイナンスを中核にした事業を行うことで検討開始する。	
8 日	ユニットエイド（UNITAID）ドゥニ・ブルーン事務局長による報告 「世界基金支援日本員会 議員タスクフォース第17回会合」が衆議院議員会館の国際会議場で開催され、ゲストスピーカーに国際医薬品購入機構（UNITAID）のドゥニ・ブルーン事務局長が報告を行った。この会合には、世界基金支援日本員会に参加している国会議員だけでなく、ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟や国際連帯税創設を求める議員連盟に参加している国会議員も参加された。市民側も、ストップ結核パートナーシップから白須代表、国際連帯税フォーラムから田中徹二オルタモンド事務局長などが参加した。	
9 日	釜石の医療を考えるフォーラムに参加 チームかまいし地域医療連携推進フォーラムが釜石市の主催で開かれた釜石の医療を考えるフォーラムに参加した。地域包括ケアと在宅医療の展望をテーマに、震災後の新しいまちづくりも見据えた地域医療の在り方を	

	考えるフォーラムだった。 登壇者は遠藤英彦県立釜石病院院長、若崎正光釜石市副市長、大島伸一国立長寿医療研究センター総長、辻哲夫東京大学高齢社会総合研究機構特任教授、小泉嘉昭一般社団法人釜石医師会会長、寺田尚弘チームかまいしアドバイザー。チームかまいしの取り組みは全国的にも魁となるもので、在宅医療の普及と継続、医療と介護の連携を目指して昨年7月に始まっているとの事だった。しかし市民レベルでの浸透は、まだまだであると感じる。その様な部分でのお手伝いを我々NPOがするべきだという思いを強くした。	
9 日～	東京事務所職員 釜石出張 10月中旬以降、東京事務所職員が、入れ替わり出張し釜石事務所の業務応援をした。釜石事務所とともに住民から都市計画の話を聞き、仮設住宅を巡回し、被さいされた方の最近の心境や要望を聞き取りし、地元のNPOの方との意見交換を行った。	
10 日	国際医療貢献・病院船団実現プロジェクト No.2 浅野茂隆理事長が進めている「国際医療貢献・病院船団実現プロジェクト」。理事長の20年越しの想いを抱えた会合がまたリザルツ事務所で開かれた。今回は病院船の母港の一つとして候補に挙げられている函館市役所の谷口諭企画部長、そして同計画推進室計画調整課の京野尚主査が来所した。函館市としても、病院船の必要性を認識してくれており、母港を設けることにも前向きにご検討しているとのことだった。今後も協力関係を続けていきたい。	
12 日	つなみ募金 予定通りハイチと東日本大震災のための復興支援つなみ募金を行った。幸い晴天、というよりも10月なのに炎天下で、女性陣は日焼けを気にしながらも約1時間、チラシ配りに専念した。そして配布終了後には皆で財務省の方を向き、「色々お願いします～」と拝んだ。	
13 日	リザルツ代表がストップ結核パートナーシップの調整理事会副議長に リザルツ本部（米国リザルツ）のジョアン・カーター代表（リザルツ教育基金事務局長を兼任）が、ストップ結核パートナーシップの調整理事会の	

	新しい副議長に選ばれた。カーター代表は 2009～11 年に先進国の NGO を代表して世界基金の理事会のメンバーを務め、2012 年 1 月には、同理事会の戦略・投資・効果委員会のメンバーに選ばれるなど、世界基金に深くかかわってきた。また、2005 年には世界ストップ結核パートナーシップのアドボカシー・コミュニケーション・ソーシャルモビライゼーション作業部会の初代議長も務められた。ストップ結核パートナーシップは 2001 年に設立され、WHO 本部に事務局があり、国際・専門機関、政府プログラム、調査機関、財団、NGO、市民グループ、民間セクターなど 1000 近くのパートナーとともに 100 カ国以上で結核の対策を行っている。その調整理事会は、ストップ結核パートナーシップのリーダーシップ及び方向性の提示、合意された政策・計画・活動の実施のモニタリング、そして調整を行っている重要なセクションである。
14 日	マイクロファイナンス事業活動の報告その 2 連休の最終日、国立市の上村和子市議会議員の案内で、国立市の貧困問題に取り組む方々とお会いする機会に恵まれた。 上村和子議員は国立市で様々なネットワークを確立して貧困問題に真摯に取り組んでおられる。この日は上村議員とともに女性の貧困問題に取り組んでいる遠藤良子さんが運営しているスペース F を訪れた。多目的コミュニティ施設として多くの人に利用されている。また立川市においてホームレス問題に取り組む NPO 法人さんきゅうハウスにて吉田和雄副代表や大沢ゆたか立川市議会議員ともお会いして、生活困窮者が自立していく上での問題等を伺うことができた。皆様、真剣に取り組んでおられ、本当に頭の下がる思いだった。ぜひこの経験も活かしてマイクロファイナンスの事業を進めて何か手伝えないかと考える日々である。 
16 日	ミルドレッド・フェルナンドさん来日！ フィリピンからミルドレッド・フェルナンドさんが世界基金キャンペーンのために来日した。台風直撃の日、交通機関の乱れにより、午後 2 時半に飛行機が成田空港に到着し、東京のホテルに着いたのは夜の 8 時を回ってしまった。その後リザルツの事務所へ。フェルナンドさんに、ストップ結核パートナーシップの成瀬匡則理事とともにスタンドアップをやっていただいた。 

17 日	世界エイズ・結核・マラリア対策基金への応援を！ 日本リザルツのスタッフ 4 人が 3 時間かけて、衆議院議員会館と参議院議員会館の全議員室（計 722 議員）を回り、標記の願いを込めたパッケージを届けた。今年 12 月 3 日に米国ワシントン DC で開催される第 4 回世界基金増資会合に向けて、2014～16 年の 3 年間で合計 1200 億円の拠出誓約を、というお願いとともに、今年 12 月の東京公演が決定した、南アフリカのイサンゴ・アンサンブルによる「ラ・ボエーム Abanxaxhi」のご案内をパッケージに同封。プッチーニの名作オペラ「ラ・ボエーム」は、ヒロインが結核で命を落とす物語だが、結核という古くて新しい病気の脅威に対し、私たち日本人は何ができるかを考える契機にして頂ければ、という願いが込められている、世界基金支援日本委員会と東京芸術劇場とのコラボレーションによる公演だ。 武見議員、亀田選手、ミルフレッドさん等が財務省を訪問 武見敬三参議院議員、WBA 世界バンタム級王者・亀田興毅選手、超多剤耐性結核を乗り越えたフィリピン出身のミルドレッド・フェルナンドさん、日本で多剤耐性結核を感染・発症した成瀬匡則さん、國井修世界基金戦略投資効果局長、世界基金支援日本委員会の伊藤聡子事務局長、アフリカ日本協議会の稲場雅紀国際保健部門ディレクターと共に、世界基金の重要性を訴えるために、財務省香川俊介主計局長と有泉秀主計官を訪問した。武見敬三参議院議員のご挨拶に始まり、2010 年よりストップ結核パートナーシップの結核チャンピオンを務める亀田興毅選手より、世界中の子どもたちが、感染症で苦しむことのない世界になることを心から願い、世界基金に対してご尽力いただきたいと力強く発言した。フェルナンドさんは、超多剤耐性結核に 2 度も罹り、10 年の治療を経て完治した経験と、世界基金があったからこそ治療を受けられ、今生きている と世界基金に対する熱い思いを語り、成瀬匡則さんは、日本で感染し、多剤耐性結核を発症した経験を話し、発展途上国だけでなく、日本でも結核の危険性はどこにでもあり普通の人でも罹ってしまう怖い病気であるとアピールした。國井修戦略投資効果局長は、ご自身が医師として世界各国を訪れた経験と、三大感染症の深刻さをアピールし、世界基金によって多くの命が救われることを分かりやすく説明された。そして武見参議院議員は安倍晋三首相が 9 月末の国連総会の演説で世界基金への貢献に言及されたことを挙げ、香川主計局長にもぜひ同じ思いを持
------	--



	って協力していただきたいとお願いされた。香川主計局長からは、「皆さんの熱い思いは理解しました」とあたたかいお言葉をいただいた。 外務省でスタンドアップ！ 財務省訪問後外務省に移動し、世界的な貧困解決を求めるキャンペーン「スタンドアップ テイクアクション」に参加した。木原誠二外務大臣政務官をはじめとする外務省員 200 人以上が、外務省中央庁舎前に集まった。 木原外務大臣政務官が外務省員を代表して、ミレニアム開発目標（MDGs）達成への決意を表明し、亀田選手は、フィリピンで貧困を目の当たりにした経験をもとに、「スラムの子供たちが早く貧困から抜け出し、防げる病気で亡くならなくても済むようになることを願っています」と挨拶。國井修戦略投資効果局長やフェルナンドさんも、同キャンペーンの重要性を訴え、最後に木原外務大臣政務官と亀田選手の「スタンドアップ！」の掛け声で、参加者全員が立ち上がった。 
18 日	世界基金キャンペーン＝菅官房長官編＝ 日本政府からの支援強化を訴えるため、菅義偉内閣官房長官と面会した。まずは小此木八郎衆議院議員から、面会の趣旨やメンバーのご紹介をいただいた。続いて、超多剤耐性結核を患いながらも世界基金の支援で治療を受け、命が救われたミルドレッド・フェルナンドさんが、結核治療における世界基金の重要性を話してくれた。また、過去に結核と診断されたものの、投薬治療により発症を防ぐことができたブルハン・ハーシーソマリア公使は、世界基金が結核の蔓延防止にも役立つことを話してくれた。アフリカ日本協議会の稲場雅紀国際保健部門ディレクターは、今回マラウイから来日予定だったトコジレ・フィリ＝ンコマさんが、息子さんのマラリア感染による緊急入院のために急遽来ることができなくなってしまった旨を報告し、三大感染症支援を訴えようとする人間が、家族の三大感染症感染のためにそれができなくなった無念を語った。その後、世界基金の國井修戦略投資効果局長が、三大感染症の深刻さ、世界基金の果たす役割、日本を含めた世界からの継続的支援の重要性などについて説明した。最後に、結核予防会結核研究所の石川信克所長が、結核が実に深刻な感染症であり、世界基金を通じた対策が必要であることを力 

	強く訴えた。菅官房長官は、それぞれの話を熱心に聞いてくださり、世界基金の重要性について理解を示してくれた。また、治療を乗り越えた彼らとも握手を交わし、大変でしたね、と声をかけてくださった。私たちの思いが届き、世界の三大感染症をなくすため、日本からの支援が強化されることを強く願いたい。
19 日	緊急シンポジウム「エイズ・結核・マラリア＝三大感染症は克服できる」 日本リザルツは、日本国際交流センター及びストップ結核パートナーシップの協力を得て、ルポール麹町で標記シンポジウムをアフリカ日本協議会と共催した。これは「三大感染症の克服に向けて何ができるか」を市民レベルで考えるためのシンポジウム。三大感染症と闘う当事者の声に耳を傾けたうえで、日本に、また私たち一人ひとりに何ができるかを考えた。計 90 名以上が参加し、シンポジウムの様子は NHK のニュースで報道された。 第一部ではまず、ジュネーブから来日した、  国井修世界基金戦略投資効果局長が、「世界基金は世界で何を変えたか？今後何を変えるのか？」についての講演を行い、世界基金の創設前の三大感染症の状況や創設の経緯、世界基金の特徴、成果、そして新たな資金供与モデルなどの説明を行った。続いて、「エイズ・結核・マラリア＝世界の当事者は訴える」というセッションでまず、フィリピンから来日してくださったミルドレッド・フェルナンドさんが、多剤耐性結核（MDR-TB）及び超  多剤耐性結核（XDR-TB）を経験し、10 年間の闘病生活の後生還した経験を語ってくれた。手術で肺の一部を切除しなければならなかったり、薬の副作用による肝炎や難聴、皮膚疾患にかかったり、と極めて困難な闘病生活の経験から、結核に対する適切な診断と治療の重要性を強調すると同時に、彼女の命を救った世界基金や大塚製薬へ、涙を浮かべながら感謝の意を表し、今後も継続的な支援を行うように訴えかけた。彼女の話には会場の参加者も皆、心を強く打たれた。続いて、現在「ストップ結核パートナーシップ日本」理事でもある成瀬匡則さんが、ご自身の体験を語った。IT 関連会社の営業を行っていたときに、風邪だと思っていたら実は結核だとわかり即入院。「鉄格子の無い刑務所」とも言われていた隔離病棟での闘病生活で、孤独・不安との戦いを何ヶ月も続けていた中、「前向きに病気と戦う」気持ちが湧き、自分で日々体力・精神力を鍛えて生きることへの

執着心を持って必死に戦った、というお話は、会場の参加者に改めて「生きること」について考えさせるのと同時に、勇気を与えた。

次に、息子さんがマラリアにかかって重篤状態に陥ったために今回来日が叶わなかった、ヒア・アイ・アム・キャンペーン（世界基金



への資金拠出を訴える国際的な当事者キャンペーン）の大使、トコジレ・フィリ＝ンコマさん（マラウイ出身）からのメッセージの代読が行われた。フィリ＝ンコマさんはエイズと結核で子どもの頃に両親や兄弟を亡くしたが、自分は世界基金のおかげで命をつないでいる、と。

次は、ブルハン・ハーシーソマリア国公使がご自身の経験を語った。彼はジブチから来日した時に、結核患者が乗っていた飛行機の中で結核に感染したが、病気が肺にひろがる前に日本で正しい治療を受けることができたので幸運だった、と。母国ソマリアでは結核は全国的な慢性疾患となっているが、長年続いている紛争によって保健状況が劣悪になっており、毎年1万2000人が結核で亡くなっているそうだ。

続いて、国境なき医師団（MSF）のアイザック・チクワナさん（ジンバブエ出身）が、MSFの説明を行った後、結核に関する課題として「古い」（新薬が認証されたのが50年前）、「長い」（治療に2年かかる）、「複雑」（複数の錠剤、多くの副作用）、「高額」（薬代）、「不適切」（高い脱落率・低い治癒率）、をあげた。

最後に、鈴木裕子（親子の面会交流を実現する全国ネットワーク代表・日本リザルツ職員）が、市民の視点から発表を行い、苦しむのは子どもたちであることを強調するとともに、日本が途上国を支援して信頼される国へとになっていくムーブメントを作っていくことを訴えた。

「緊急市民シンポジウム」第2部

第2部では、公益財団法人 日本国際交流センターの執行理事で、世界基金支援日本委員会の伊藤聡子事務局長をモデレーターに、世界基金へ焦点を当て、日本がどう貢献できるかについての熱い議論が展開された。



まず最初に「世界基金増資ビデオ」上映があり、その後パネルディスカッションへと続いた。パネリストは以下の通り。

【(特活) マラリア・ノーモア・ジャパン水野達男専務理事】

長年マラリア対策に取り組む「住友化学」でマラリア蚊帳をタンザニアの

	現地工場で製作・拡大に貢献されたご経験を通じ、「企業にとってアフリカは市場としての価値もあり投資しがいのあるマーケットでもある。日本のリソースを使ってマラリアに立ち向かっていきたい」と述べられた。 【外務省国際協力局小沼士郎国際保健政策室長】 2000年の沖縄サミットから2002年の世界基金立ち上げまでの貴重なエピソード（裏話）を伺うことができた。医師で外交官という肩書きをお持ちの稀有な存在の方。「疾病対策は人の対策」と人間味あるご発言があった。 【(特活) アフリカ日本協議会稲場雅紀国際保健部門ディレクター】 横浜の寿町で日雇い労働者の保健問題に取り組んだことをきっかけに、市民社会の活動家として保健や人権の問題に取り組んでいる。エイズについては「End AIDSを目指しながら、Living Togetherという側面も重要」とお話になったのが印象的だった。 【ミルドレッド・フェルナンドさん】 「フィリピンの結核患者は『どうして街中で治療するのだ、どうせ死ぬのに』というような心無い言葉を浴びせられることもある」というお話に胸が痛んだ。彼女自身「ようやく生きていて実感できるようになった」そうだ。今年6月にご結婚されたばかりと。 【世界エイズ・結核・マラリア対策基金國井修戦略投資効果局長】 國井局長が世界基金の中枢にいらしてくださることで、日本政府は安心して拠出することができる。世界基金の内側から、三大感染症に立ち向かう世界をひとつにまとめてほしい。パネリストによる自己紹介を兼ねた世界基金とのつながりなどのお話の後、世界基金へ何を期待するか、今後どうあって欲しいかについて、それぞれのお立場からご提言いただいた。続いて、日本に何を期待するかについての議論の中では、日本政府の拠出への期待だけでなく、日本企業、日本のNGO、大学など、日本が総体として、世界基金との関係においてどうあるべきか、どのように貢献できるか、ご意見が交わされた。続いて、白須代表が「宣言文」を情感たっぷりで声高らかに朗読し、会場の皆さんに、大きな拍手をもって採択された。会場がひとつになるのを感じられる素晴らしいシンポジウムになった。短い時間で準備された関係者の皆さん、ご参加くださった皆さんに感謝したい。
21 日	国際連帯税フォーラム第5回理事会への参加 自治労会館で開催された会議に参加した。今月行われた国際連帯税議連第2回勉強会やUNITAID報告会などに関する概要説明が行われた後、12月8



	日に予定されている国際シンポジウムの準備にかかる話し合いが行われた。 動く→動かす」の第6期第4回運営委員会への参加 プラン・ジャパンで開催された会議に参加。昨日で終了した今年の「スタンド・アップ」キャンペーンの現在までの集計結果や、「動く→動かす」のこれまでの活動の振り返り及び今後の目標設定などについての話し合いが行われた。
22 日	国際医療貢献・病院船団実現プロジェクト No.3 事務所にて浅野茂隆理事長が提唱する病院船プロジェクトの会合が開催された。今回は、海国立志会発起人会合と題する会で、関係の先生方が多数、参集した。 参加者は（財）函館国際水産・海洋都市推進機構 伏谷伸宏事務執行理事推進機構長、（株）うぶすな 伊澤英孝特命執行役員、日本生体医工学会航空・艦船医工学会研究会三戸恵一郎会長、池永優美子さん、神戸大学大学院海事科学研究科小田啓二教授、早稲田大学理工学術院中尾洋一教授、浅野茂隆理事長。病院船実現に向けて強い気持ちを持っていて、毎回議論風発している。今回「病院船」の名前を何にしたら良いか、についても話し合われた。ひとまず、リザルツでは「国際多目的病院船」プロジェクトと呼ぶこととした。 
23 日	釜石事務所主催 恒例講座 『廃油利用の石けん作り講座』 大平仮設 談話室・・・初めて作ってみる方もいらっしやって、環境の話に興味を示していただいた。 『リボンフラワーはまゆり講座』 甲子(かっし)第7仮設 集会所・・・「先生のお話を聞いて、釜石市の花 ” はまゆり” が、改めて良い花だと思いました～ありがとうございます！」と仰っていただいた。
24 日	GAVI アライアンスの MTR について 日本リザルツがキャンペーン事務局をつとめる GAVI アライアンスが、来る 10 月 30 日にスウェーデンのストックホルムで中間評価会合を行う。この会合には、日本リザルツ 白須代表も出席する予定だ。GAVI は現在、2011～2015 年をカバーする五カ年計画の中間地点に達しており、会合では今まで達成した成果を報告し、今後取り組むべき課題についてさまざまなアライアンス・パートナーと協議する。今後も、日本リザルツは GAVI アライ

	アンスのキャンペーン事務局として、GAVI の活動を日本国内に広め、国としてワクチン事業を強力にサポートできるようアドボカシー活動を続けていく。
25 日	ハイチの結核診療所への募金ありがとうございます（HP より） 10 月 2 日の朝日新聞の夕刊に、「ハイチの結核診療所、苦境：日本人医師引退、支援募る」という記事が掲載されて以来、須藤昭子シスターを応援したいと、多くの方々が募金をして下さいました。ご協力して下さいました皆様、本当にありがとうございました。そしてまだまだ、募金のお知らせの通知がリザルツのもとに来ています。皆様の温かいご支援に心から感謝いたします。その皆様のお気持ちはリザルツが必ず責任を持って、ハイチの結核診療所にお届けいたします。須藤シスターにも喜んでいただけるに違いありません。
29 日	廃油による石鹸作り 甲子第 4 仮設集会所で開催。お隣の第 3 仮設からも参加してくれた。参加者は意欲的で次回はご自宅の廃油で作りたい！と。 リボンフラワー はまゆり講座 甲子第 9 仮設 集会所で開催。参加者から「7 月の石鹸作りの石鹸、とっても良いよ！また頼むね！！今日のはまゆりも久々に集中できて良い時間だった～」と、こちらも励みになった。尚、今月のはまゆりは、来月初めの「文化祭」に出品する事になった。  
30 日～31 日	第四回 OECD「税と開発」タスクフォース会議 OECD が主催する第四回「税と開発」タスクフォースの会議が韓国で開催。日本リザルツは NGO 代表の一つとして OECD タスクフォースメンバーに参加した。会議の最初の議題は今年 7 月の G20 でも採り上げられた、OECD が進めている「税源浸食と利益移転（BEPS）」。これは OECD が提唱している新しい国際課税のルールづくりで、G20 でも大きな話題となり、この勢いでその前から始まっている国境無き税務監査人プロジェクトも全体的に勢いづいている。国境無き税務監査人の今後の進め方についても OECD 事務局スタッフより説明があった。昨年の 12 月、パリでこれまでの試行結果の発表があり、本年 6 月に事務局が報告書を纏め発表。その後、7 月に G20 で上記の BEPS、9 月にポスト MDG s が世界的な話題となったので、このプロジェクトをそれらの出来事と関連付けて大きく仕立てていく様子

	がよく伝わってきた。 2 日目は移転価格税制の問題について協議。 更に資源産業への課税取組強化や開発援助との連携性について話し合われた。税務を巡る国際情勢を把握できた上に課題も抽出できたという点で実りある会議だった。	
31 日	第 3 回 UHC 勉強会 ジョイセフで行われた勉強会に参加した。今回の勉強会では、ケニアとタイにおける UHC に向けての取り組みの事例について発表及び質疑応答が行われたが、NGO 等から約 30 人が参加した。UHC とは本当に必要な人に必要なサービスが行き渡ることであり、ケニアでは UHC に関する議論がとても活発に行われている、ということで、杉下智彦 JICA 国際協力専門員の発表ではケニアにおける UHC に向けての様々な工夫に関する説明があった。続いて外務省国際保健政策室の渡部明人外務事務官から、タイが UHC に向けて熱心に取り組むを行ってきことや、国民参加型の保健医療体制であることなどの説明があった。両方の事例において、UHC 実現をめざす「政治的意思」の重要性が認識された。	
11 月		
2～4 日	「はまゆり講座」のはまゆりが芸術文化祭へ！ 「芸術文化活動の発表および鑑賞の機会を提供し、薫り高い文化のまちづくりに寄与する」ことを目的として第 43 回釜石市民芸術文化祭が開催された。発表部門では歌、バレエ、琴、吟詠、器楽、民謡、朗読・・・展示部門では、絵画、書道、切り絵、押し花、写真、水墨画・・・そしてリボンフラワー石垣教室のブースには、10 月の『はまゆり講座』の甲子(かつし)第 7・第 9 仮設の皆さんの作品が展示された。	
3 日	東京の事務所スタッフの釜石への出張 市内の集会所が流失してしまった地区に集会所を作るための、リザルツ釜石事務所の活動を支援するための出張。より住民の皆様の要望に沿う集会所を建設するためには皆様の生の声を聴くことが一番大切という認識から、釜石の現地スタッフと共に住民の皆様のお住まいを一軒一軒訪問。皆様の忌憚ない御意見を聞かせていただくことができ、大変参考になった。	

5 日	ワクチン予防議員連盟総会開催 【場所】 衆議院第2 議員会館 第2 会議室（地下1 階） 【議題】 ① 新役員紹介 ② 最近の予防接種行政の動向（厚生労働省） ③ 10/2 外務大臣要請についての回答（外務省） ④ GAVI アライアンスによる麻疹・風疹ワクチン支援 GAVI アライアンスの北島千佳上級資金調達官の来日に合わせて開催。今回は、80 名（資料受け取りを含む）を超える方々が参加。まずは、ワクチン予防議員連盟会長 鴨下一郎衆議院議員よりご挨拶があった。次に、会長代理兼幹事長 古屋範子衆議院議員より、事務局長を新設し、秋野公造参議院議員が就任されるとの発表があった。厚生労働省からは、最近の予防接種行政の動向について説明があった。内容は、予防接種・ワクチン分科会における検討状況、予防接種基本計画、HPV(子宮頸がん予防)ワクチンの副反応報告に関する専門家評価、今後の風疹対策だった。ワクチン予防議員連盟副会長 武見敬三参議院議員は、HPV(子宮頸がん予防)ワクチンの副反応について指摘された。外務省からは、インドネシア視察団を含むワクチン予防議員連盟から10月2日に岸田文雄外務大臣に提出した要請についてのご回答があった。GAVI アライアンスの拠出金、コールドチェーンの整備・改善分野、GAVI をはじめとする国際機関に日本人幹部の派遣、国際ワクチン市場への国際戦略について福島章外務省国際協力局審議官が話された。ユニセフ東京事務所代表平林国彦氏は、ワクチンの必要性をアフリカの子どもを例にしてお話いただいた。北島千佳上級資金調達官は、インドネシア視察のビデオを流し、麻疹・風疹ワクチン支援について、お話された。インドネシア視察にご参加された藤井基之参議院議員からは、GAVI やワクチンに対する熱い思いを語っていただいた。 
6 日	GAVI アライアンスの北島千佳上級資金調達官の日本リザルツ事務所訪問 GAVI アライアンスのアニメーションをいただいた。 ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）に関する意見交換 GAVI の北島千佳上級資金調達官にお誘いいただき、元 WHO インドネシアにてユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）に取り組 

	んでおられた村越英治郎さんに、UHC に関するお話を聞かせていただいた。 JANIC の長期スタディ・プログラムへの参加 鯉部がバングラデシュに向けて出発。BRAC にて約 3 か月強のマイクロファイナンス実地研修を行う。首都ダッカと地方にてマイクロファイナンスの実務や考え方を学習する予定。	
7 日	藤井基之参議院議員を訪問 GAVI の北島千佳上級資金調達官とともに訪問した。藤井先生は、先日開催されたワクチン予防議員連盟総会において、GAVI や途上国における予防接種サービス拡大に向けた日本政府からの支援の重要性について、力強く訴えてくださった。今回はその御礼を申し上げつつ、今後の GAVI の活動展開等をご相談させて頂いた。薬学博士でもある藤井先生は、途上国においてワクチンを届ける際の温度管理等の技術面の課題にも注目されており、安定的な電力供給がない地域でのコールドチェーン（低温管理下での輸送方式）の拡充についても、色々ご助言をいただいた。また、日本の高い技術力を生かし、ワクチン製造における貢献の方法についてもさまざまなお考えを聞かせていただいた。	
8 日	GHIT ファンド（グローバルヘルス技術振興基金） 第一回助成案件が公表され、日本リザルツがかねてより応援している保富康宏教授らが研究開発を行う、新規結核ワクチンの初期段階の研究に対する助成が発表された。	
10 日	GAVI に関する勉強会を開催 GAVI の北島千佳上級資金調達官を講師にお迎えして開催。北島さんから、GAVI の仕組みや役割、これまでの成果、課題などについて説明していただいた。質疑応答も活発に行われた。勉強会の後は、昼食をとりながら意見交換を行った。	
10～12 日	日本リザルツ東北事務所職員の東京出張 10 日の GAVI に関する勉強会や、11 日のつなみ募金に参加。つなみ募金には初めての参加だった。	

11 日	つなみ募金（東北とハイチの募金活動）を実施 数日前のブログでのお知らせを見て参加して下さった方や、大学生 2 名も加わり、総勢 9 名で、道行く人々に約 1 時間、声をかけて資料を配った。経済産業省のかたから声をかけられた。 
12 日	「はせ浩 政経セミナー」への参加 親子ネットや関係者とともに参加。パーティーは大変盛況で、たくさんの先生方が壇上でご挨拶された。まずは町村信孝「清和政策研究会」会長。続いて、森喜朗元総理大臣、以前からお力になってくださっている 下村博文文部科学大臣。馳浩先生の御礼のご挨拶の後、乾杯のご発声は松浪健四郎先生。そして、アントニオ猪木参議院議員、稲田朋美衆議院議員。壇上での御礼のご挨拶の際、馳先生は「現在の優先課題はふたつ。ひとつは『過労死』の問題。そして、もうひとつは『親子断絶』の問題。日本は離婚したら子どもに会えなくなるのです。ある日、奥さんに子どもを連れて行かれて会えなくなる、裁判所に助けを求めても会えるようにならないのです」と、何百人ものご出席者の前ではっきりと、「優先課題」とおっしゃった。今まで、石のように動かなかったこの問題に直向きに取り組んできた当事者たちは、涙を浮かべたり、「今日はいい日だ！」と満面の笑みを浮かべたり、「このお言葉を伺えただけでも参加した甲斐がありました」など口々に言って喜び合った。 
13 日	国連世界食糧計画（WFP）日本事務所代表との会合 白須代表と齋藤が WFP を訪問し、スティーブン・アンダーソン代表と会合を持った。大室直子民間連携推進マネージャーも同席して下さった。日本リザルツからは、シグノー結核療養所の入院患者の食糧確保のための支援が早急に望まれている中、日本リザルツは、そのための緊急支援及び持続的支援の仕組みづくりをめざして、外務省や JICA などと相談してきたことをご説明し、WFP にも是非協力していただきたい、とお願いした。これに対し、アンダーソン代表は、「ハイチは、大地震の復興が進んできたとはいえ、頻繁に災害の被害を受ける国であり、WFP の優先国です。WFP はハイチでは、HIV と結核の重複感染の患者さ 

	んに対する食糧支援や、「Cash for Assets」、学校給食、代替エネルギー、そしてキャパシティ構築の支援を行っています。」と説明し、HIV と結核の重複感染の患者さんに対する食糧支援を実際に行っている団体を紹介してくださった。そして、「シグノー結核療養所の患者さんへの食糧確保のために今後協力していきましょう」と、合意した。今後の良きパートナーとして、日本リザルツからはTシャツをプレゼント。WFP からピンバッジをいただいた。
14 日	外務省 総合外交政策局 人権人道課 西岡達史ハーフ条約室長に、ジョン・ゴメスさんとブルース・ゲルベッティさんを紹介 ゴメスさん（アメリカ出身）とブルースさん（カナダ出身）は「Kizuna CPR (Child-Parent Reunion)」という NPO を立ち上げ、ハーフ条約に関連する LBP (Left Behind Parents) の相談やサポート業務を行っている。お二人も当事者だが、日本に長くお住まいだ。従って、アメリカやカナダの文化と日本の文化の両方を解することができ、本国の議会や大使館ともパイプがある立場なので、2014 年 4 月に日本も加盟する「ハーフ条約」について、自分たちに役に立てることがあるはず、と熱く語っておられた。西岡室長も親身になって二人のお話を聞いてくださった。 
15 日	台風ハイエンによる被害に対する支援に向けての準備 大きな被害を受けたフィリピンを支援するため、日本リザルツは現地とのネットワークを活かし、関係者がフィリピンへ渡り、被害の比較的少なかったセブ島を拠点にした支援活動を前提に、準備を開始した。
18 日	グローバルヘルス技術振興基金（GHIT）CEO 他のリザルツ訪問 GHIT の BT スリングスビーCEO と鹿角戦略担当部長が日本リザルツ事務所にお越しくくださった。日本リザルツも応援している結核ワクチン開発研究が GHIT の第 1 回目の助成案件に選ばれ、また、27 日に開催するシンポジウム「第 2 回麹町サミット＝結核の研究開発と日本の貢献＝」では、鹿角戦略担当部長にご登壇いただき、GHIT の活動等についてお話しいただく予定となっているが、今回は今後の協力関係を約束し合う良い機会となった。
19 日	世界のこどもにワクチンを 日本委員会（JCV）の報告会への参加 JCV の報告会「ワクチン普及活動の現場から 第 2 回 ソマリアー不思議の国から見たアフリカの角」に参加した。2012～13 年にかけてソマリア全土を対象にワクチン供与活動とワクチン保冷庫の建設を行った JCV が、今年 4 月にソマリランドを視察したときの報告会。視察時に 5 価ワクチンの

接種開始記念式典が行われたということで、記念に作られたTシャツには、WHO、ユニセフのロゴとともに、そのワクチンを提供したGAVI アライアンスのロゴが入っている。大石倫義常務理事・事務局長の閉会のご挨拶では、人は自分のために何か行うより、人のために何か行ったほうが満足度が高い、という大学の研究結果が出ていることに言及された。



ソマリア大洪水緊急事態に対するご支援に関する話し合い

ソマリア北東部では11月10～11日にかけて熱帯低気圧によって引き起こされた大洪水で深刻な被害を受け、多数の人々が苦しんでいる中、駐日ソマリア経済文化代表部（JSECO）の代表理事ブルハン・ハーシーさんに、被害状況や支援のニーズに関しお話を伺った。ミレニアム・プロミス・ジャパンの伊藤正芳さんも同席してくださった。



亀田興毅選手の試合の応援

台風ハイエンによる被害に対する支援に向けての事前調査のためにフィリピンのレイテ島へ向かう途中、韓国済州島に立寄って、お世話になっている亀田興毅選手の試合で応援をした。



「国際連帯税創設を求める議員連盟」2013年度第4回総会の開催

「国際連帯税創設を求める議員連盟」2013年度第4回総会は、石橋通宏参議院議員（事務局長）の司会進行で始まった。開会にあたり、まず、小池百合子衆議院議員からご挨拶があった。続いて、藤田幸久参議院議員（会長代行）からご挨拶があった。そして牧原秀樹衆議院議員からご挨拶があった。次に、特別参加されたクリスチャン・マセ駐日フランス大使より、「オランダ大統領から安倍総理への親書について」のお話があった。マセ大使は、予算の緊縮が迫られている状況にありながらも開発援助を重視し

	てその努力を続けているという点で日本もフランスも同様であり、そのためには革新的な財源が必要であること、そして、航空券連帯税は、既存の空港税に僅かな上乗せを行うものであるが、三大感染症対策等の、安定かつ予測可能な資金源となることなどの説明があった。続いて、外務省国際協力局 飯田慎一 地球規模課題総括課長から、「国際連帯税に関する最新の動向について」のお話があった。そして、情報共有及び意見交換が行われた。白須代表も国際連帯税フォーラムなどに関する質問に対して回答し、台風で多大な被害を受けたフィリピンへこれから渡航することにも言及した。
21 日	国際連帯税フォーラム第6回理事会への出席 12月8日に開催される「ポストMDGsと国際連帯税・金融取引税に関する国際シンポジウム」の準備等の協議を行った。  ポストMDGsと国際連帯税・金融取引税に関する国際シンポジウム ～貧困・環境破壊・格差のない次の時代を模索～ 開催日時：2013年12月8日(日) 13:30～16:30 開催場所：青山学院大学
24 日	マイクロファイナンス研修 バングラデシュ地方研修へ BRACでの研修は地方に移って行くことになった。首都ダッカから南西へ移動してインドとの国境に近いジョジョールという町に在るBRACのラーニングセンターにて、マイクロファイナンスを始め、教育や保健等のプログラムに参加する。 
25 日	『石鹸づくり講座』と『はまゆり講座』の開催 今回の『石鹸づくり講座』と『はまゆり講座』は、夜行バスで釜石に来てくださった、東京からのボランティアの皆さんに手伝っていただいた。これまでも心のこもった物資を度々送っていただいている。午前中の石鹸作りの後は、ボランティアの皆さんの指導により、紙コップで作った蝋燭に押し花を貼って作る「和・蝋燭（ろうそく）作り」が行われた。手作りのバックや編み物、お菓子もいただき、小白浜仮設の皆さんも嬉しそうだった。午後は、甲子第4仮設住宅集会所で『はまゆり講座』を行った。ボランティアの皆さんも、講師の石垣さんの釜石の花『はまゆり』（スカシユリ）のお話を聞いて、「優しい花ですね～」と仰っていた。寒くなるこれからの季節のための手編みの靴下カバーと手作りのお菓子という、思いかけないお土産もいただき、「今日来て良かった～」とか「わざわざ東京から来ていただいただけでも有り難いのに、お土産まで頂いた～」と、講座に参加された皆さんは喜んでおられた。 

26 日	『石鹼つくり講座』と『はまゆり講座』の開催 午前中に甲子第9仮設、通称 大松（おおまつ）の集会所で『石鹼作り講座』を行った。7月にも開催しているが、その時に作って使ってみたこの石鹼の良さを実感したとの事で、要望があつて再度開催した。『石鹼作り講座』の材料費等は、ザ・ボディショップ・ニッポン基金 2013 年度の助成金で賄われていること等の経緯を説明し、感謝の気持ちでの記念撮影を行った。昨日参加して下さったボランティアの皆さんからいただいた、心のこもったお土産は、ここでも喜ばれていた。2013 年になって物資の支援はぐっと減っているが、「たまには嬉しい!」「ご褒美を頂いた気持ちだ〜」等々、喜ばれていた。午後からは、桜木町仮設の談話室で『はまゆり講座』を行った。ラテやお茶菓子は東京のボランティアの皆さんからの差し入れである事を話した。「明日の手芸の会の時にいただきます!」とお喜びだった。 
27 日	「第2回 麴町サミット」=結核の研究開発と日本の貢献= 会場となるホテルの「ルポール麴町」から、そこで開催するシンポジウムを「麴町サミット」と銘打ち、今回を「第2回麴町サミット」として打ち出した。シンポジウムは、日本リザルツ 白須の挨拶から始まった。ウィンストン・ズルさんが遺されたメッセージを伝え、「彼が生きていたら、いまだ結核で多くの人が亡くなる現状を悲しまれることであろう」と一日も早い結核の克服に向けて誓いの言葉があった。そして前半の、パネルディスカッションと質疑応答へと続いた。モデレーターは田辺功ストップ結核パートナーシップ日本 常任理事・元朝日新聞社東京本社編集委員が務められた。パネリストの一人は、多剤耐性結核経験者の立場から、成瀬匡則ストップ結核パートナーシップ日本 理事。「患者の立場を経験し、闘病は孤独だと思っていたが、こんなに大勢の味方がいて孤独ではないと心強く感じた」という言葉が印象的だった。また、10月中旬に世界基金キャンペーンのために来日された、超多剤耐性結核を経験されたミルドレッド・フェルナンドさんがビデオ出演された。奇跡ともいえる病気の克服体験をもとに「生きていることを楽しみたい」と話されたのが心に響いた。結核診断システム「LAMP 法」開発者の立場からは、栄研化学株式会社の納富継宣執行役兼研究開発統括部生物化学第二研究所 所長にご参加いただいた。画期的な LAMP 法診断によって、結核の早期発見早期治療が可能になることや、ハイチの官民連携プロジェクトのご報告などがあった。新規結核ワクチンの研究開発に取り組む立場からは、独立行政法人 医薬基盤研

究所長類医科学研究センターの保富康宏センター長のご出席があった。結核の場合は粘膜に施すワクチンが有効で、鼻から垂らすワクチンが7～8年で実用化か？という最新の情報を伺えた。GHIT Fund（グローバルヘルス技術振興基金）の鹿角契戦略担当部長は、日本のイノベーション創出力や技術を活かし、結核をはじめとする開発途上国の感染症制圧に向けた国際共同研究開発を推進するGHITの事業などについてお話しされた。アフリカ日本協議会の稲場雅紀 国際保健部門ディレクターからは、NGOの役割として、社会的な関心を高めることも重要な役割であるとのこと提言をいただいた。外務省の小沼士郎国際協力局 国際保健政策室長からは、国際貢献と国際展開は両輪であるというお話があった。厚生労働省の山内和志大臣官房国際課 国際協力室長の氏は、結核は二重感染などの深刻な問題もあり、多くのパートナーと共に感染症問題に取り組んでいきたいとお話しされた。各パネラリストからのお話の後、最新トピックとして「11月25日、欧州医薬品委員会が大塚製薬のデラマニドを多剤耐性結核の治療薬として販売承認を推奨することを発表した」という発表が、大塚製薬 吉武益広専務執行役員・抗結核プロジェクト グローバルプロジェクトリーダーよりあった。その後、パネラーとフロアとの対話へと続き、活発な意見交換が行われ、各分野の横のつながりを作る良い機会となった。パネルディスカッションの後は、武見敬三参議院議員による講演が行われた。武見先生が国際保健医療の分野に造詣が深くなられた経緯から始まり、その分野において戦後の日本が取り組んできたこと、その結果、日本は「健康な中産階級社会」となり平均寿命が延びるなど、世界にその施策を発信、貢献できる成熟した国家になり得たことなど、などをたくさんのグラフをご提示されながらご講話なされた。最後のまとめとして、結核予防会結核研究所の石川信克所長から、「結核研究開発分野の方々の努力とその分野への投資を横系に、保健システムを世界戦略にしていく国際保健外交を縦系に、織り成していくことが大切である」とのお話があった。



28 日	フィリピンレイテ島の台風被害調査 済州島からセブ島へ飛び、翌朝 5 時半出航のフェリーでレイテ島のオルモックへ渡り、そこから車に揺られて 1 時間、北のタバngo へ向かった。道路は瓦礫が取り除かれ、走れるようになっていた。沿道のガソリンスタンドは油を求める人達が列をなしていた。道路の両側には、台風で被害を受けた家々が延々と続いていた。そして、タバngo に到着した。かなり吹き飛ばされ、被害は甚大。村のキャプテンは「今までどこからも支援が無かったタバngo に、初めて日本人が来てくれた」と紹介してくれた。その後、報道の多いタクロバンへ行き、日本大使館が臨時に設置したジャパンデスクを訪ねて情報交換した。それから最終のフェリーに乗るべく大急ぎでオルモックに戻るも、何やらトラブル発生で予定より 2 時間以上遅い出航。結局、セブ島に着いた時は 24 時を回っており、そこから大急ぎで空港へ行き、夜中の 2 時半発の飛行機で帰国の途についた。 
29 日	国際開発ジャーナル 12 月号：「多剤耐性結核」に正しい理解を 10 月 19 日に開催された第 1 回麹町サミットにパネリストとして参加し、11 月 27 日の第 2 回麹町サミットでは、ビデオ出演されたフィリピン人のミルドレッド・フェルナンドさんの記事が国際開発ジャーナル 12 月号に掲載された。記事の中で、彼女は結核に対する偏見をなくし、治療に関する正しい知識を普及する啓発活動の重要性を語っている。また、フィリピンのテレビ局である ABS-CBN で、闘病体験がドラマ化された。彼女は、同じ病に苦しんでいる人たちに伝えている。「治療を忍耐強く続ければ回復し、素晴らしい人生が待っている」と。 
12 月	
4 日	古知先生・渋谷先生 来所 WHO でエイズ、結核、マラリアの三大感染症すべての部長を務められた古知新（こち・あらた）先生と、東京大学大学院医学系研究科の渋谷健司教授が事務所にお越しくくださった。昨今のグローバルヘルスの動向や国内の種々の問題も含め、色々大変有意義なお話を聞かせていただいた。

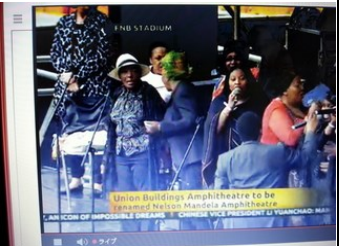
5～6 日	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）に関する国際会議への参加 世銀と日本政府の共催による UHC に関する国際会議に参加した。この会合は、日本の国民皆保険制度導入から 50 周年となった 2011 年から行なわれていた日本政府と世界銀行による 2 年間の UHC に関する研究成果の発表の場だった。国民皆保険制度を日本の UHC 政策と位置づけ、50 周年の節目を機に、UHC に関する日本の経験や知識の共有、世界各国の応用を検討することが目的。 5 日は、「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）に関するテクニカル・ラウンドテーブル」が開催され、上述の研究に参加した日本を含む 11 カ国すべてが、それぞれの研究成果を紹介した。研究には低中所得国として、エチオピア、バングラデシュ、ベトナム、インドネシア、ガーナ、ペルー、ブラジル、トルコが参加し、高所得国として、日本とフランスが参加していた。 6 日には「保健政策閣僚級会合：ユニバーサル・ヘルス・カバレッジに向けて」が開催された。開会にあたり、まず、前日に亡くなられたネルソン・マンデラ元南アフリカ大統領への追悼の意を込めて黙とうが捧げられた。渋澤健 日本国際交流センター理事長がモデレーターを務められたオープニングセッションでは、武見敬三参議院議員（プログラム調整委員会共同議長）、マーガレット・チャン 世界保健機関（WHO）事務局長、ティモシー・エヴァンス 世界銀行人間開発ネットワーク保健・栄養・人口（HNP）局長（プログラム調整委員会共同議長）からの歓迎の辞、麻生太郎 副総理兼財務大臣の開会の辞に続き、ジム・ヨン・キム世界銀行総裁による基調演説があった。次のセッションでは、武見敬三参議院議員による「日本の経験：ユニバーサル・ヘルス・カバレッジをいかに達成し維持するか」の発表、エヴァンス世界銀行人間開発ネットワーク HNP 局長による「日本政府と世界銀行による保健共同研究：成果と教訓」の発表の後、ウィリアム・シャオ ハーバード大学公衆衛生大学院経済学 李國鼎（K. T. Li）教授、スーマン・クオン ソウル国立大学校公衆衛生大学院学部長、池上 直己 慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教授によるパネルディスカッション及び全体討議が行われた。このセッションのモデレーターはマイケル・ライシュ ハーバード大学公衆衛生大学院国際保健政策武見太郎記念講座教授が務められた。コーヒー・ブレイクを挟んで次に、以下のかたがたをパネリストに迎え、「閣僚級ラウンドテーブル」が行われた。モデレーターは、武見敬三参議院議員とエヴァンス世界銀行人間開発ネットワー
-------	--

	ク HNP 局長が務められた。 モハメド・ニアズリン・ミア バングラデシュ保健・家族福祉省次官 ケベデ・ワーク エチオピア保健国務大臣 シェリー・アイッテイ ガーナ保健大臣 ペ・テ・キン ミャンマー保健大臣 アワ・マリー・コール=セック セネガル保健・社会活動大臣 ティエン・グエン・ティ・キム ベトナム保健大臣 午後の最初の「UHC の効果測定」に関するセッションではまず、ティーズ・ボーマ WHO 保健統計・保健情報システム担当部長及びエヴァンス世界銀行人間開発ネットワーク HNP 局が、WHO/世界銀行共同ディスカッションペーパー「国及び世界レベルでの UHC に向けた進捗モニタリング：枠組み」についての発表を行い、続いてシン・ヨン・スー WHO 西太平洋地域事務局長とマーク・ピアースン 経済協力開発機構（OECD）保健局長による討議、そして全体討議が行われた。モデレーターはウィリアム・サマースキル『ランセット』編集主幹が務められた。コーヒー・ブレイクを挟んで次に行われた「パートナーシップ・ラウンドテーブル」では、開発パートナー及び市民社会組織（CSO）代表として Stefan Nachuk ロックフェラー財団アジア事務所アソシエイト ディレクター、國井修 世界基金戦略投資効果局長、Young-Soo Shin WHO 西太平洋事務所（WPRO）地域ディレクター、Luiz A. Galvao 汎米保健機構（PAHO）持続可能な開発・健康の公正特別プログラム代表、Bruce Campbell UNFPA 技術部長、ジョイセフ 石井澄江理事長、Ariel Frisancho ケア ペルー 社会権利プログラムユニット国家マネージャー による討議及び全体討議が行われた。加藤宏 独立行政法人 国際協力機構（JICA）理事がモデレーターを務められた。田村憲久 厚生労働大臣とエヴァンス世界銀行人間開発ネットワーク HNP 局長による閉会の辞をもって、会合が閉会された。
6 日～	フィリピン・台風ハイエン（台風 30 号）被さい者支援を開始 ジャパンプラットフォーム（JPF）の「フィリピン・台風ハイエン（台風 30 号）被さい者支援」の一環として、緊急支援を開始した。日本リザルツは、支援から取り残されていたタバngo市の 13 のバラngガイに、缶詰め、米、ミルク、懐中電灯のパッケージを配布する計画。12 月 9 日にリザルツの職員が現地に到着し、被さい者の最新状況の確認や、支援物資を一時的に保管する場所の確保、タバngo市の災害リスク削減管理委員会やバラngガイのキャプテン（長）など現地の人々との協力体制の構築などを行った。多大な被害を受けたタクロンバンなどから、親戚等を頼りに一時的にタバngoに避難する被さい者の方々が増えており、市の災害リスク削減管理委

	員会の12月5日現在の公式統計では、支援を必要としているのは合計9754世帯、バランガイのキャプテンたちによるとその数は10004世帯ということで、リザルツが11月の調査をもとに計画した支援対象8000世帯より大幅に増えていることが解り、キャプテンや現地の人々と協力して、パッケージを調整し直すなどして、なんとか現在支援を必要としている世帯全部に支援物資が行き渡るように工夫・努力することになった。現在支援物資の手配や、物資のパッキング及び配布を手伝ってくださる現地ボランティアの手配などをキャプテンと協力してすすめており、来週、物資の配布を行う予定。
7 日	親子ネット「クッキングイベント」 親子ネット主催で「クッキングイベント」を開催した。少なくとも月に4～6日は面会交流しないと、「子どもの情緒的安心感の向上」に効果が出ないという科学的根拠と、先進国ではそれを実践できているという実績がある。従って、父母の離婚後、非監護親と子どもの面会交流は年間100日必要だと考えられる。隔週2泊3日、春夏冬 休みに一週間ともに過ごすと、だいたい100日になる。現在家庭裁判所で一般的に出される月一回2時間の面会交流では、一緒に遊園地に行くなど非日常的なイベント交流になりがちで、“生活”を子どもたちと共有することができない。一緒にご飯を作って食べる、身体を動かす、テレビをみる、お風呂に入る、勉強をする、寝るなどの日常をともにすることで、子どもは親からの有言無言のメッセージや訓えを受け取ることができる。そうした親子の日常を支援する一つとして企画したクッキングイベントでした。 調理師免許を持つ運営委員の指導の下、下記のメニューを作った。 ・コブサラダ ・レバーペーストとパン ・ジャガイモのニョッキ チーズクリームソース ・かぼちゃのニョッキ アーリオオーリオ ・チキンカチャトーラ ・オレンジチーズムース 子どもたちは4人の参加だったが、かぼちゃとジャガイモをマッシュしたりニョッキをこねたり形成したり、お野菜を切ったり、盛り付けたり、それぞれの年齢に応じて楽しんでお料理していた。子ども同士の交流にもなったようだった。大人は20名ほどの参加だったが、男性陣も普段からお



	料理をされている方が多く手際もコミュニケーションもよく、うまく分担し合い、和気藹々としたいいイベントになった。
8 日	ポスト MDGs と国際連帯税・金融取引税に関する国際シンポジウム 青山学院で開催された「ポスト MDGs と国際連帯税・金融取引税に関する国際シンポジウム」では、クリスチャン・マセ駐日フランス大使の基調報告の中でフランスのお話があった。金融取引税は少しの負担で多くの資金が集められるシステムであり、グローバル化で得られた富裕層の富を僅かな負担で貧困対策にまわす事が効率的にでき、貧困対策が最終的には全ての人の負担となる世界的問題を避ける事ができるということを強調されていた。また、1 回飛行機に乗る時にかける航空券税の僅か 100 円でも、10 人分の結核治療薬になったり、HIV の子ども達の治療ができると、具体例を沢山提示された。航空機を使うだけ世界の人々とつながれるその連帯感、絆を日本人もフランス人と同じ様に「誇り」に思うでしょう、という締め言葉が心に残った。フィリップ・ムニエエイズ・感染症担当大使からは、感染症対策についてお話しがあった。国際連帯税創設を求める議員連盟からは会長の衛藤征士郎衆議院議員の代理として事務局長の石橋通宏参議院議員がご挨拶された。シンポジウム後半にはパネル討論があった。 
9～12 日	フィリピン・台風ハイエン（台風 30 号）被さい者支援 引き続きレイテ島でタバンゴ市民に緊急支援物資を配布する準備を進めた。9～10 日には、フィリピン最大の放送局 ABS-CBN 財団を通じて寄付された物資の配布現場を見ることができた。今回の物資配布は、バランガイ市イナガタン地区のキャプテンの Willy さんにコーディネートしていただくことになった。イナガタン地区集会所まで物資を港から運ぶが、狭くて舗装されていない道を通るため、途中から小さなトラックに積み替えて、Willy さんの敷地の物資保管場所まで運ぶ。集会所の裏はクリニックになっており、赤ちゃんが予防接種に来ていた。11 日には、タバンゴ市役所を訪問し、市長にご挨拶した。市役所では、各バランガイのキャプテンが随時台風の被害状況、今後の支援について話し合っている。12 日、市長と今後予定している農業、漁業、畜産業再生支援について話し合い、情報提供と共に、ニーズの確認をお願いした。動物では、カラバオと呼ばれる水牛が不足しているとの情報を入手した。 

11 日	ネルソン・マンデラ元大統領追悼式 12 月 5 日に亡くなったネルソン・マンデラ元南アフリカ大統領の追悼式が、10 日南アフリカヨハネスブルクの競技場で行われた。日本リザルツ職員一同も、マンデラ氏のご冥福を心よりお祈り申し上げた。 
12 日	超党派 日本・ハイチ友好議員連盟 総会 日本・ハイチ友好議員連盟の総会が開催され、「シグノー結核療養所の入院患者への食糧支援・持続的支援の仕組みづくり」について意見交換・議論が行われた。まず、日本リザルツより、昨年 8 月末～9 月初旬にかけてのハイチへの出張時に行った視察について報告。シグノー結核療養所が早急な支援を必要としている状況を説明した。続いて外務省より、最近のハイチ情勢やハイチ大地震に対する日本の支援についての説明があった。日本リザルツが詳細なシグノーの状況調査を行い、その結果をもとに再度、日本・ハイチ友好議員連盟で方策を議論することが合意された。
14 日	『石鹸作り講座』大船渡市へ出張！ 大船渡市猪川（いかわ）町の山馬越仮設の談話室で『石鹸作り講座』が行なわれた。大船渡北小学校の敷地内にある仮設住宅。釜石市内だけでやってきた『石鹸作り講座』だが、大船渡市でもやってみたいという声を受け、「助けあいジャパン」の橋渡しで実現した。「夢ねっと大船渡」の『クリスマス会』のなかのワンコーナーとして『石鹸作り講座』をやらせていただいた。”身体や環境に優しい石鹸の話し”は、共感を持って聞いていただいた。また、ザ・ボディショップの助成金のお蔭で、材料費等が賄われている事に触れると、皆さんから感謝の言葉が聞かれた。 
15 日～	フィリピン・台風ハイエン（台風 30 号）被さい者支援 15 日からは、支援物資が揃いパッキング作業が始まった。コーンビーフ、ツナなど 4 種類の缶詰を 10 数缶とお米、フラッシュライト、粉ミルクを詰め合わせて、JPF と日本リザルツの名前入りのステッカーを貼って袋を閉じる。毎日約 30 人のスタッフが袋詰め、準備をしてくれた。配布日に間に合わせるために時には、夜も遅くまで作業を行な 

	い、尚且つ朝早くから作業をしてもらった。スタッフは皆、働き者。ウィリーさんの妹のジョセフィンさんがスタッフリーダーとして随時指示してくれていた。物資は常に2人のセキュリティが見守った。17日から物資配布を開始した。各バランガイで住民に一つの場所に集まってもらい物資を配布する。バランガイによっては、配布場所まで片道徒歩1時間半以上かかるところがある。それほど、皆物資を待ちわびていた。皆、ありがとう！「サラマ」と喜んでくれた。時々、日本語でありがとうと言ってくれる方もいる。大塚製菓からは、ポカリスウェットを20,016本ご寄附いただいたが、山間部のバランガイなどからは、1〜2時間もかけてひと山越えて配布場に来られる方も少なくないので、いくつかのバランガイにはポカリスウェットも1本ずつ入れた。袋を開けて、うれしそうに抱える子どもや、すぐに飲み始める人、本当に皆うれしそうだった。バランガイキャプテンには、クリスマスシールを貼ってお化粧したポカリスウェットを数本お渡ししたが、大変好評でよいクリスマスプレゼントになった。食糧と懐中電灯を各バランガイに配布した際、その横に特設の健康相談コーナーを設置し、ボランティアで日本から行っていただいた野呂医師にご担当いただいた。先生は、血圧と脈拍をはかり、気になる症状をお聞きになり、アドバイスをされた。地域住民の方々もすっかりファンになられて、気軽に「ドクトル！」とお声掛けされていた。野呂医師が帰国後、角泰人医師が健康相談を実施してくださった。先生は結核専門医であり、外科医、内科医のご経験もある。やはりここでも高血圧の方が多くいたようだ。
16 日	ストップ結核パートナーシップ (STBJ) 日本総会 STBJの総会に出席した。総会では今年度の活動報告が行われた他、来年度の重点活動についての発表もあった。WHOが打ち出すポスト2015結核戦略についてや、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) と結核の連動についても話し合われた。外務省国際保健政策室の稲岡恵美さんがUHCに向けた取り組みをご紹介くださった。総会の後はレセプションが行われた。ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟の赤枝恒雄衆議院議員と逢沢一郎衆議院議員がお見えになった。結核分野の研究開発について、結核とUHCについて、今後の結核の世界戦略について、など関係の皆様から結核を盛り上げていくための前向きなお話が続いた。 

	栄養ラウンドテーブルの開催 ルポール麹町にて、日本リザルツと、セーブザチルドレンジャパン、ワールドビジョンジャパンが「栄養ラウンドテーブル 第3回麹町サミット 栄養対策と日本の貢献」を共催した。外務省、財務省、内閣府、JICA、ユニセフ、FAO、国立健康・栄養研究所、青年海外協力隊・栄養士隊員 OG、味の素株式会社、グローバルリンクマネジメント株式会社、アフリカ日本協議会、プランジャパンに参加いただき、栄養と日本の貢献について活発な論議が行われた。司会は田辺功医療コンサルタント・医療ジャーナリストが務められた。今回の栄養ラウンドテーブルは、官民がはじめて栄養について論議した取り組み。具体的な方法論を考えていくために第2回、3回とつなげていくことに、皆様にご賛同いただいた。 
16～17 日	『石鹼作り講座』と『はまゆり講座』の開催 16 日午前には『石鹼作り講座』を大曾根仮設で、午後は『はまゆり講座』を大平第 1 仮設で、そして 17 日午前は『石鹼作り講座』を日向第 2E 仮設で、午後は『はまゆり講座』を田郷 D 仮設で行った。地味だけれど「参加して良かった」と今回も仰っていただいた。 
18～19 日	GAVI 北島さん来日 GAVI の北島千佳上級資金調達官が来日された。今年お世話になった国会議員の先生方には、直接お会いしたりお手紙をお届けしたりして、御礼をお伝えするとともに引き続きのご支援をお願いした。財務省の太田充主計局次長と面会した際には、GAVI の特徴の一つである官民パートナーシップの発展性に変な興味を持っていただいた。金融（ワクチン債）、医薬品（ワクチン製造）、流通（コールドチェーン）など、幅広い分野で日本が貢献できることがたくさんあり、非常に面白い。また、予防接種により人が健康に生活できるようになり、子どもがきちんと育つことができることは、途上国の発展に重要である、とも言及された。また、外務省国際協力局地球規模課題総括課飯田慎一課長、国際保健政策室下荒磯誠課長補佐、国際保健政策室福島かおり外務事務官とも面会し、引き続きのご支援をお願いした。 

23 日	親子ネットのクリアファイル 親子ネットは、親子の絆を守るためのキャンペーン「りこちゃんキャンペーン」を行っているが、その「りこちゃんキャンペーン」のクリアファイルがこんなに素敵に出来上がった。 
24 日・26 日	台風ハイエン被さい者支援ミーティング 24 日に民主党 石橋通宏参議院議員が、フィリピンの被害状況や支援についてお話を聞きくださるとのことで、議員会館にお伺いした。その際、NGO 同士の横の連携が必要だということや、外務省や JICA の話もお聞きしたいという点で、石橋参議院議員と日本リザルツの間の意見が一致し、石橋参議院議員外務省、JICA にお声掛けくださり再度ミーティングを持つことになり、26 日に石橋参議院議員は早速そのミーティングを調整してくださった。外務省からは、国際協力局 民間援助連携室、南部アジア部 南東アジア第二課、国際協力局 緊急・人道支援課のご担当者が 4 名、JICA からは 2 名、日本リザルツからは、白須代表、木下さん（フィリピンプロジェクトのパートナー）、野呂医師、鈴木が参加させていただいた。はじめに、JICA の岩間さんより、これまでの状況等に関するご報告があった。野呂医師からは、レイテ島タバンゴで 144 人の健康チェックを行った結果、高血圧が高率であることと、食生活等の環境因子だと思われるので、投薬よりも生活習慣指導を行うべきというお話があった。続いて、石橋参議院議員からは「緊急支援の段階から復興・復旧を目指していけるよう各 NGO の連携が必要。また、周辺の小さな島々の状況も心配だ」とフィリピンにお住まいになられたご経験から、フィリピンの地形や風土、フィリピン政府の体制などもご存知な先生ならではの言及もなされた。外務省からは、セブ、レイテ、サマールの島々では、JPF の傘下で 16 団体が支援活動を行っているが、住宅支援も始まり、引き続き次の案件も形成中というお話があった。日本リザルツの白須代表と木下さんからは、「物資の配布はその時は喜ばれるが、配布後に一抹の空しさが残る、地域の住民の方々が自立していける支援こそ重要。それぞれの NGO が得意分野を活かし情報交換しながら支援する必要がある」などの意見を出した。それに対し、外務省からも「私たちも、Build back better を目指しています」と、真の支援、有効な支援についての意見が満場一致した。 